

富山市の遺跡物語



No.25



富山藩主前田家墓所（墓園御廟所）東から 令和5年11月21日撮影

富山城の北西約3kmの八ヶヶ山地区内には、江戸時代の大名墓である富山藩主前田家墓所があります。

令和5年10月に「指定相当の埋蔵文化財包蔵地」として文化庁のリストに登録されましたが、令和

6年1月の能登半島地震で登籠などの石造物が倒壊しました（※詳細は51頁の研究報告7参照）。

目次

I 史跡この1年	
1 北代縄文広場	2
2 端中安田城跡西史の広場	3
II 埋蔵文化財調査概要報告	
1 杉谷A遺跡	4
2 荻本町遺跡	5
3 水橋金瓜・中馬場遺跡	5
4 今市遺跡	6
5 米田大寛遺跡	7
6 中富居遺跡	8
7 下邑東遺跡	9
8 今市遺跡	9
III 令和5年度事業概要	
1 埋蔵文化財調査実情	10
2 遺跡地図管理	15
3 史跡の修護・管理	16
4 展示・普及	19
5 利行物	21
6 活用	21
7 調査研究	22
8 研修等参加	24
9 寄贈	24
10 組織・事業費	24
IV 研究報告	
1 北代遺跡・2002年度調査報告 遺物補遺 [納屋内高史]	25
2 杉谷A遺跡出土鉄器について [野垣好史・小黒智久]	29
3 富山市八尾町高基寺地内出土の埋蔵銭について [その2] (仲あずみ)	35
4 富山県内における六道銭について [仲あずみ]	36
5 富山城下町遺跡主要部における井戸のまじな い [堀沢祐一]	43
6 松川護岸工事に伴う富山城跡試掘調査・工事 立金報告 [野垣好史・納屋内高史]	47
7 令和6年能登半島地震における埋蔵文化財の被災 状況について—富山藩主前田家墓所と富山城 跡— [鹿島昌史]	51

I 史跡この1年

はじめに

北代縄文広場と安田城跡歴史の広場では、マスク着用・手指消毒等へのご協力をお願いし、感染症の予防に努めています。

1 北代縄文広場

(1) 「縄文一きただいー再発見」北代縄文広場ボランティア入門講座 (5/9・16・25) を開催しました (16頁参照)。

「富山市北代縄文広場ボランティアの会」新会員募集のきっかけづくりとして、ボランティアの会の発案で、埋蔵文化財センターと協力して、北代縄文広場ボランティア入門講座「縄文一きただいー再発見」を3回開催しました。この講座終了後に5名の方が入会しました。

(2) ミニ企画展「北代遺跡の新・出土品展」(7/19～1/21)を開催しました。

平成14年度の発掘調査で出土した縄文土器や土製品、石器、骨角器などを75点展示し、この調査でわかった新しい成果を紹介しました。

この調査では、北代遺跡の人々は、台地上に集落を営みながら、斜面地を縄文時代中期から晩期まで長期間粘土の採掘場として利用していたことがわかりました。

また、驚あるいは祭祀遺構は、北代遺跡で初めて見つかり、縄文時代晩期には斜面地に墓地や祭祀の場を選定していたことがわかりました。

展示状況



(3) ミニ企画展「新奇贈品展 富崎丘陵の縄文時代」(1/23～7/21)を開催しています。

この展示では、市民の方が昭和40年代から富崎丘陵周辺で採集され、令和5年度に富山市へ寄贈された資料128点の中から、縄文時代の土器や土製品、石器、石製品54点を紹介しています。

採集資料の内容から、縄文時代には富崎丘陵の人々は、ヒスイや千石岩、黒曜石といった産地が限られる石材を入手したり、大きな石俵を使った祭祀をおこなっていたと考えられます。また、採集資料はかつて富崎丘陵にも縄文遺跡があったことを示す確かな証拠で、扇中・八尾地域の縄文時代を知るうえで貴重な資料です。



展示資料の一部

(4) 北代縄文考古学講座(8/27・10/15)を開催しました(16頁参照)。

本講座は、考古学や縄文時代、郷土富山の歴史・文化など様々なジャンルをテーマに、受講生が楽しく学ぶことを目的とした講座です。

本年度は、北代遺跡出土の弥生土器や、縄文時代の編物をテーマとして、2回講座を行いました。

令和5年10月15日に開催したその2では、松永篤知氏(金沢大学資料館特任助教)を講師に迎え、富山県内から日本列島の縄文時代編物の種類や特徴について、出土例を基に詳しく解説していただきました。(細辻嘉門)



松永氏による講座

2 婦中安田城跡歴史の広場

ふすま ぶちゅう

(1) 安田城跡再整備事業

広場では、地域の歴史的文化遺産である史跡安田城跡を適切に保存管理し、歴史学習や憩いの場として活用を図るため、再整備事業を実施しています。

令和5年度は堀の改修を実施しました。工事では水堀で防制した安田城の歴史的景観を取り戻すため、堀底に厚く堆積した泥やスライレンの根茎を除去しました。また、劣化した護岸の木材をプラ擬木材に変更して、施設の長寿命化に取り組みました。

再整備で新堀に植えるカキツバタについては、富山県中央植物園のご協力のもとで栽培を進めているほか、植栽試験を開始しました。この試験は、カキツバタが実際に堀に植えて環境が合うかやどのような植栽設備が適しているか等を確認するもので、結果を実施設計に活かします。

再整備事業は、再整備検討会議の意見を反映しながら数年間かけて実施します。工事期間中も資料箱や広場の一部は公開しており、水をたえた堀が徐々によみがえってくる様子が楽しめます。

是非ご来場ください。(大野英子)

(2) 歴史講座その1「太田保と中世富山を考える」(17頁参照)

令和5年7月30日、加藤達行氏(元富山市郷土博物館館長)を講師に迎え、安田城跡歴史講座その1を開催しました。

講座では、鎌倉時代から戦国時代末期頃にかけて富山南東部に存在した太田保を中心に、平安時代末期から江戸時代初期にかけての富山の歴史について講演いただきました。特に太田保を拠点とし、室町幕府の政所代を務めた越川氏について、詳しく解説していただきました。

(3) 歴史講座その2「安田城一戦国越中を見つめた城一」(17～18頁参照)

令和5年11月11日、安田城跡歴史講座その2を開催しました。第1部の講座では、当センター職員が安田城について、過去の発掘調査から確認された城の構造や出土遺物、当時の時代背景について解説しました。

また、第2部の安田城跡再整備工事現場見学では、堀内に設けた仮設道場において、工事の監督員(株式会社イビシ 近藤匡志氏)が堀の改修工事の説明を行い、参加者からは「再整備工事の内容について、知ることができてよかった」という感想が聞かれました。(宮田康之)



重機で堀に堆積した根を除去



カキツバタの植栽試験

氏名	所属
西井龍儀	富山考古学理事、一般建築士
高岡 敬	とやま歴史的環境づくり研究会代表
古谷 元	富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科 教授
黒田啓介	富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科 准教授
中田政司	富山県中央植物園長
中村只吾	富山大学芸術研究部教育学系 准教授
澤野重雄	富山市公園緑地課長

安田城跡再整備後援会議の専門家(敬称略)
(第7回：R5.11.30、第8回：R6.2.19)



加藤氏による講座



再整備工事現場見学

調査概要要旨 1 新たな方形周溝墓を確認

杉谷 A 遺跡

(杉谷地内)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市街地から西南西 6.5 km に位置し、富山大学医学部杉谷キャンパス内に所在します。標高 54m の貝羽丘陵上に立地します。

これまでの調査で、弥生時代終末期の円形周溝墓 1 基 (A0 号墓)、方形周溝墓 17 基 (A1～A17 号墓) を確認しています。遺跡に隣接して、西陵突出型墳丘墓である杉谷 4 号墳があります。



A18 号墓周溝検出状況

2 調査の概要

駐車場造成工事に伴い試掘調査を行いました。

その結果、弥生時代終末期の方形周溝墓 2 基 (A18 号墓、A19 号墓)・溝、古代の埴壁土坑などを確認しました。出土遺物は、弥生土器 (月影Ⅱ式) です。

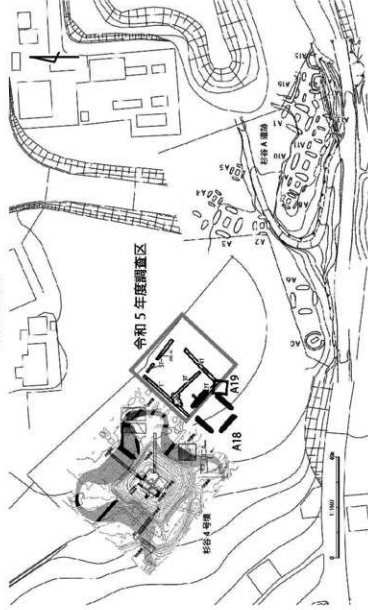
A18 号墓は、周溝の検出長 8.0m 以上、幅 2.0m、深さ 0.26m、溝の四隅を掘り残すタイプ (A 群) です。A3 号墓や A10 号墓の周溝が一辺約 11m であり、ほぼ同規模の大型の方形周溝墓と推測されます。

A19 号墓は、周溝の検出長 3.8m 以上、幅 0.8m、深さ 0.40m、溝を四隅めぐらすタイプ (B 群) です。A14 号墓や A15 号墓の周溝が一辺約 5.5～6.0m であり、ほぼ同規模の方形周溝墓と推測されます。

(堀内大介)



試掘調査で出土した蓋・壺



※『小羽山墳墓群の研究』第 1-54 図を改変
杉谷 A 遺跡方形周溝墓配置図

調査概要報告 2 市街地に新たな周溝墓を確認

1 遺跡のあらまし

遺跡は、神通川右岸の自然堤防上、標高 10m に立地します。JR 富山駅から東方 1.6 km に位置し、東 100m には北陸新幹線が走っています。周辺は市街地化している地域で、小さな畑地が点在する程度です。

2 調査の概要

共同住宅建設に伴い、試掘調査を行いました。

その結果、弥生時代後期の方形周溝墓 2 基、円形周溝墓 1 基、旧河川跡を確認しました。方形周溝墓の 1 基は、一辺 19m の大型墓と推測されます。遺物は、弥生土器（法弘式カ）が出土しました。

旧河川の傍の自然堤防上に周溝墓が築かれる状況は、同じく市街地で見つかった千石町遺跡の方形周溝墓群（弥生時代中期）に類似しています。

今後も富山市街地では、新たな弥生時代の集落や墓地が見つかる可能性があります。（堀内大介）

調査概要報告 3 埋没古墳を発見

1 遺跡のあらまし

遺跡は、富山市水橋地区の白岩川右岸の平野部、標高約 9m に位置します。周辺は縄文時代以降、多数の遺跡が形成されてきた地域です。

本遺跡は、平成 10 年度から 21 年度にかけて農道や北陸新幹線建設に伴う調査が行われ、縄文時代から江戸時代まで長期に及ぶ遺跡であることが判明しました。弥生時代から平安時代までは主に畑跡等の生産域、鎌倉時代から江戸時代にかけては館跡を中心とする居住域が広がっていました。また、遺跡内には、古墳時代前期末～中期初頭の円墳である宮塚古墳・若王子塚古墳があります。

2 調査の概要

市道水橋金広中馬場線改良工事に伴い 100 m² の工事立会を行いました。若王子塚古墳から東へ 300m に位置します。

その結果、古墳時代前期の古墳の周溝が見つかり、周溝から古式土師器が出土しました。

周溝の規模は、北西側が幅約 2.4m、深さ 25 cm と幅広く、北東側が幅約 1.4m、深さ 27 cm と幅狭です。異なる幅の周溝が巡るタイプで、同タイプの類例として「宮塚古墳遺跡 S702（古墳時代前期の前方後方墳）」があります。このことから、見つかった周溝が前方後方墳の周溝である可能性があります。（堀内大介）

くまのこまの 窪本町遺跡

（窪本町地内）



円形周溝墓(奥)・方形周溝墓(手前)

水橋金広・中馬場遺跡

（水橋中馬場地内）



一方後方墳の周溝

調査概要報告 4

謎の掘立柱建物・塀を確認

いはい 今市遺跡

(寺島地内)

1 遺跡のあらまし

調査を行った寺島地区は、今市遺跡の南東端にあり、富山市中心部から北北西 5 km に位置します。標高 5m 前後で、旧神通川の中洲（自然堤防）に立地します。

周辺の調査では、弥生時代後期～古墳時代前期の柱穴・土坑、平安時代の竪穴建物・掘立柱建物・道路状遺構、戦国時代の採掘穴、近世の区画溝などが見つかっており、弥生時代から江戸時代まで連続と人々が生活を営んでいたことが分かっています。

寺島地区では、鎌倉時代の薬師堀・土橋を持つ中世城館（寺島館跡）が見つかっています。この地区は、室町期に國人寺島氏を輩出した可能性のある土地で、その備兵となる勢力が城館を築いたと推測されています。

2 調査の概要

鉄塔建替工事に伴い、256 m² を対象に発掘調査を行いました。その結果、古代の畷跡、時期不明の掘立柱建物、塀を確認しました。遺物は、土師器、須恵器が出土しました。

古代の畷跡は、東西方向の畷溝が南北方向の畷溝を切っており、新旧 2 時期があります。

掘立柱建物は、2 間×1 間ないしは 2 間×2 間（4.8 m 四方）の正方形の建物です。

掘立柱建物の東に東西方向の塀を 2 列確認しました。北塀・南塀ともに 2 間分を検出しました。北塀と南塀の間は 7m 離れています。塀と塀に挟まれた空間には遺構が希薄で、掘立柱建物の正面に塀に挟まれた通路があったと推測されます。

北塀は、主柱とその北側 1.5m の位置に杵控柱があります。主柱に対し杵控柱のある塀は「敵氏塀」と呼ばれ、社寺の塀などに使われています。南塀も同様の杵控柱があると考えられます。北塀の主柱の規模は、幅 66～98 cm、長さ 96～112 cm、深さ 72～83 cm の隅丸長方形の掘方を持ち、直径 30 cm 近い柱痕が確認できます。間尺は西側 3.5m、東側 2.2m です。

掘立柱建物・塀の柱穴からは出土遺物がなく、建築時期が不明ですが、南塀が墳砂を切って築かれます。墳砂は、貞観地震（863 年）、天正地震（1586 年）、飛越地震（1858 年）のいずれかで起きたと考えられ、これらの地震以後に掘立柱建物・塀が建てられたと言えます。柱穴の形状は古代の掘立柱建物でよく見られる形状で、検出した建物・塀が古代とすると、噴砂は貞観地震によるものと考えられます。一方で、江戸末期以後の建物である可能性も考えられます。（堀内大介）



調査区全景（西から）



畷跡（東から）



掘立柱建物・塀（東から）

調査概要報告5 方位を北に揃える掘立柱建物群を検出

1 遺跡のあらまし

遺跡は、海岸線から約3km南に入り、神通川から東方1.5kmの厄籠原にあります。周辺には、豊田町から広がる微高地をはじめ、自然堤防が点在し、古代を中心とする遺跡が分布します。過去の調査で、掘立柱建物群がし字形の配置をなし、石帯や墨書土器など官衙的な遺物が出土していることから、本遺跡は平安時代の新川郡衙と考えられています。

今回の調査区は遺跡の南端に位置し、北隣の住宅団地の発掘調査では、中世居館と想定される区画溝が確認されています。

2 調査の成果

宅地造成工事に伴い、発掘調査と工事立会を行いました。調査では、古代集落が遺跡南西部に拡大することが分かりました。

遺構は、掘立柱建物4棟を検出し、それらすべて北に軸を揃えて築かれていました。そのうち2棟は総柱建物で、南北に並んでいます。過去の調査で数多くの掘立柱建物が確認されている中で、総柱建物は1棟のみでした。今回の検出状況は、郡衙の正倉城を連想させ、注目されます。他にも直径1.7m以上の大きな素掘り井戸を検出し、井戸からは、ひょうたんの底部や墨書土器などが出土しました。

遺物は大半が9世紀代で、3時期に分けられます。墨書土器や旋軸陶器など官衙的な遺物が出土しましたが、今回の調査で検出した柱穴規模が、郡衙中枢地の調査区で検出された柱穴より小規模なこと、土師器素炊具が多いことから、郡衙との繋がりを考える上で課題が残ります。

3 黒色塗膜のある土師器について

内面に黒色塗膜が付着する土師器の碗が出土しました。黒色塗膜は部分的に剝離し、縮みシワはありませんが、付着物は漆の可能性が考えられます。漆をかき混ぜるための漆パレットとしての利用が想定されます。古代において漆は、古代国家の管理下に置かれた材料であり、生産においては高度な技術が必要で、これらを生産・所有することができた指導者の存在が伺えます。

漆が付着した土器の存在は、東木津遺跡(高岡市)や物領浦之前遺跡(水見市)などでみられます。いずれの遺跡も辻家や在地領主関連の遺跡と考えられており、今回の調査区で確認された郡衙周辺に立地する集落の性格を考える上での手がかりとなりそうです。



発掘調査区全景



総柱建物(北東から)



黒色塗膜のある土師器碗

調査概要報告6 鎌倉時代の中世墓を確認

1 遺跡のあらまし

遺跡は、「富居(フゴ)」(=湧水地)の名前のとおり、かつては湿地のような景観が広がる場所に立地していました。昔の航空写真から、本遺跡周辺には旧河川の流路跡が何本も確認でき、遺跡北西側の豊田地区に広がる微高地により排水が妨げられた結果、生み出された湿地帯のようです。

過去の調査では、平安時代前期(9世紀初め～中頃)の小溝群(畠跡)や墨書土器「庄カ」[加口□]などが見つかっていました。

今回の調査区は広田小学校の南側、県道56号富山環状線の西側に位置し、調査区の西隣には広田用水が南北にはしります。

2 調査の概要

宅地造成工事に伴い、道路部分227.14㎡を発掘調査しました。その結果、平安時代の溝、畠跡をはじめ、鎌倉時代の掘立柱建物や井戸、集石墓、土埴墓と推定される土坑群などを検出しました。

試掘調査では墨書土器「京カ」が出土しました。もし「京」ならば、平安京をイメージしますが、武蔵国府跡(東京都)などで出土例があります。地方では国府を指す場合もあるそうです。越中国府は高岡市伏木地区に比定され、本遺跡と19km以上も離れています。墨書土器の解釈は、今後の課題です。

3 中世墓について

集石墓は鎌倉時代(13～14世紀)の間に、3期の変遷を経て計9基築かれます。13世紀後半の集石墓では、珠洲焼の蔵骨器に収められた屍骨が出土しました。科学分析の結果から、20～50代の男性と推定されます。

集石墓の近くには、土葬墓と考えられる長方形の土坑が存在し、火葬後に埋葬された集石墓より古いと考えられることから、土葬から火葬へ変化していることが見て取れます。

4 条里地割と中世墓の関係

中世墓は、調査区南部で東西方向の帯状に分布し、墓域の北隣には平安時代(9世紀後半)の溝が並走します。中世墓は墳墓地に営まれることが多く、この溝も先行研究から平安時代の条里地割の重境と推定でき、平安時代の条里地割が鎌倉時代の墓地造営に影響を与えたことが分かりました。また、中世墓の墓域は、調査前の畦道と重なります。約1,200年前に設けられた条里地割が、現代の区画まで影響を与えていたようです。(泉田佑希)



畦道

調査区全景(南から)



土葬墓か



集石墓(写真中央に珠洲焼と焼骨)

調査概要報告7 古代の瓦葺き建物が存在か

しもむらむがし 下島東遺跡

(婦中町羽根根地内)

1 遺跡のあらまし

遺跡は、西を羽根根丘陵、東を井田川に挟まれた平野部にあり、標高は約14mです。周辺は、過去の調査で奈良～平安時代の遺構・遺物が広範囲で確認されており、大規模な集落が広がっていたと推測されます。

2 試掘調査の成果

果嘗ほ場整備事業に伴い約2haを対象に試掘調査を行ったところ、奈良～平安時代を中心とする集落跡が確認されました。微高地にある集落の東側には谷地形が広がり、ここから30点以上に及ぶ瓦片が出土しました。瓦には製作時に付いた布目の跡がみられます。この時代に瓦を葺くのは役所や寺院などごく一部の建物に限られ、重要施設が存在したことが推測できます。建物が廃絶した後、使われていた瓦が谷に捨てられたのでしよう。

また、本遺跡ではこれまで未確認だった弥生時代の遺構・建物も新たに見つかり、古くから長期にわたりに集落が営まれていたことがわかりました。(野垣好史)

出土した奈良～平安時代の瓦(一部)



調査概要報告8 神通川沿いの古代集落

いほいら 今市遺跡

(寺島地内)

1 遺跡のあらまし

遺跡は神通川下流左岸の平野部にあり、標高は約5mです。過去の調査では、今回調査地の北側で奈良～平安時代の集落跡や、鎌倉時代の館跡(寺島館)が確認されています。

2 試掘調査の成果

果嘗ほ場整備事業に伴い約2haを対象に試掘調査を行いました。その結果、奈良～平安時代の竪穴建物などが見つかり、集落の広がりを確認できました。竪穴建物は方形で、わずかな調査面積にもかかわらず約3棟確認されたことから、多くの竪穴建物が地下に存在していると推測できます。集落の東西にはかつて神通川の旧流路があり、川に挟まれた微高地に集落を築いたことがわかります。

出土遺物は、日常雑器である土師器・須恵器のほか、漁の網に使う土製のおもり

奈良～平安時代の竪穴建物の一部(白線の右側)



(土罐) もあります。(野垣好史)

Ⅲ 令和5年度事業概要

1 埋蔵文化財調査実績

(1) 発掘調査 調査に伴い遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

遺跡名 (遺跡No.)	所在地 寺島	調査原因	面積 (㎡)	調査結果	遺跡の種類 集落
今市(2010023)		特別高圧送電線 铁塔建設	256	不明大型穴、不明ピット、不明 炊炊遺構／古代土師器、古代 須恵器	集落
米田大堂 (2010034)	米田町2丁目	宅地造成	249.6	古代独立柱建物、古代坑、古代 井戸、古代溝、古代土坑、古代 ピット、中世土坑／古代土師器、 古代須恵器、古代穴窯跡器、古代 穴運土器、中世珠洲、中世瀬戸 美濃、不明輪郭、不明鉄管、 不明鉄釘、ひょうたん	集落
中富居(2010251)	上船野	分譲宅地造成	227.14	古代土坑、古代溝、古代炊炊 遺構、古代ピット、中世土坑、 中世溝、中世溝跡、中世井戸、 中世溝、中世ピット／古代 土師器、古代須恵器、古代輪 郭口、古代石鏡、中世土師器、 中世珠洲、中世青磁、中世木製品 (しやもじ、箸、板、版)、中世 鉄線、中世人骨、江戸瀬戸美濃、 江戸越中瀬戸	集落
計3件			732.74		

(2) 試験調査・工事立会 調査予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。＊は工事立会

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(㎡)	調査結果
大村(2010008)	海岸通り字古盛跡割	個人住宅建築	328.79	室町溝／室町土師器、江戸陶磁器、近 代陶磁器
今市(2010023)	寺島	県営沼津整備事業	19,700	古代穴窯跡物、古代溝、古代土坑、古 代ピット／古代土師器、古代須恵器、 古代土鏡、江戸陶磁器
草島(2010029)	草島字鶴田	駐車場造成	528	江戸伊万里
森(2010031)	森1丁目	埋設物調査	296.78	縄文(使)縄文土器、弥生土器
森B(2010032)	森3丁目	学習館建築	391.86	江戸磁器
森B(2010032)	森3丁目	共同住宅建築	1,116	遺跡なし
森町(2010033)	森町5丁目	個人住宅建築	683.07	遺跡なし
蓮町(2010033)	蓮町5丁目	個人住宅建築	233.88	遺跡なし
米田大堂 (2010034)	米田町1丁目	フェンス設置工事	32.72	不明溝／なし
米田大堂 (2010034)	米田町2丁目	宅地造成	932	古代土坑、古代溝、古代黒色土器、古 代土師器、古代須恵器、古代土鏡、江 戸越中瀬戸
米田大堂 (2010034)*	米田町2丁目	宅地造成	365.88	平安土坑、平安ピット、平安溝、平安 井戸、中世土坑／平安土師器、平安須 恵器、平安平家土器、平安黒色土師 器、平安土鏡、平安磁石、中世青磁、江戸 越中瀬戸、近代陶磁器、不明磁器
瓶野新屋 (2010038)	新屋	駐車場造成	450.42	弥生大溝、不明土坑／弥生土器、古代 須恵器
平塚亀田 (2010048)	平塚	個人住宅建築	539.86	古代溝、古代土坑／古代土師器、古代 須恵器
平塚亀田 (2010048)*	平塚字湯薬割	個人住宅建築	539.86	遺跡なし
宮条南(2010055)	野中	個人住宅建築	1,088.1	不明溝、不明土坑／古代土師器、江戸 越中瀬戸
宮条南(2010055)	町袋	乾燥調製施設建築	122.4	古代溝、古代土坑／なし

遺跡名 (通称No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
宮本原(2010055) *	町役	乾燥調製施設建築	23.48	古代溝、古代土坑/縄文(晩)縄文土器
水橋龍町・土ヶ堂 (2010056)*	水橋土ヶ堂	市道水橋土ヶ堂新道 6号線外1線改良工事	44	遺跡なし
小出城跡 (2010066)	水橋小出	個人住宅建築	359	江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸陶磁器、江戸石臼、近代磁器
水橋上砂子坂・ 下砂子坂 (2010074)	水橋下砂子坂	個人住宅建築	224	遺跡なし
瀬海寺城跡 (2010091)	野々上字地造	車庫建築	36	江戸溝/江戸越中瀬戸、江戸伊万里
瀬海寺城跡 (2010091)	瀬海寺字水口	埋設物調査	395.38	遺跡なし
瀬海寺城跡 (2010091)	瀬海寺字上福	個人住宅建築	283.37	遺跡なし
吉作北X (2010100)	住吉	個人住宅建築	160	古代土師器
山寺谷1 (2010141)	呉羽町字立ノ内	分譲宅地造成	548.4	縄文土坑、縄文ピット/縄文土器
呉羽コソフバラ (2010149)	呉羽町字水上	個人住宅建築	221.55	遺跡なし
道分茶屋字祝ノ松 (2010160)	道分茶屋字祝ノ松、 呉羽町字藤塚	個人住宅建築 運給頭交差設備・ 電気設備設置工事	278.32	古代土師器
茶屋町向隅 (2010164)	茶屋町字向隅	個人住宅建築	271.46	不明溝/なし
茶屋町東 (2010177)*	呉羽町借崩	呉羽丘陵フォートパス 建設調査 運給頭交差設備・ 電気設備設置工事	748	縄文土器、近現代磁器、不明木製品
呉羽富田町 (2010182)	北代字布口	個人住宅建築	476.51	平安土坑、不明土坑/縄文土器、平安土師器、平安須恵器
呉羽富田町 (2010182)*	北代字伊佐原	カーポート建築	31.02	遺跡なし
呉羽富田町 (2010182)*	北代字布口	個人住宅建築	65.37	平安土師器
呉羽富田町 (2010182)	北代	看板工事	74	遺跡なし
北代中尾 (2010183)	北代字中尾	埋設物調査	428.64	古代土坑、古代ピット/古代須恵器、 古代土師器
梅菜寺隆寺 (2010194)	北代字村巻	個人住宅建築	340.49	遺跡なし
梅菜寺隆寺 (2010194)	北代	個人住宅建築	164	遺跡なし
梅菜寺隆寺 (2010194)	北代字村巻	個人住宅建築	396.78	不明土坑/古代須恵器、江戸伊万里 坑、江戸小杉堀、近代陶磁器、近代ス レート
北代加茂下Ⅲ (2010203)	北代新字加茂下	埋設物調査	277	遺跡なし
北代加茂下Ⅲ (2010203)	北代新字加茂下	埋設物調査	590	不明穴/不明灰滓
北代加茂神社 (2010205)	北代新字加茂下	個人住宅建築	639.45	不明溝/縄文土器
長岡杉林 (2010214)	長岡字杉林	個人住宅建築	249.68	平安土坑、平安ピット/平安土師器、 平安須恵器
富山藤土前田家 敷所(長岡御所)	八ヶ山	墓地造成	264	弥生~古墳溝、江戸土器/縄文土器、 弥生~古墳土器、江戸瓦
百蔵住吉B (2010233)	宮尾	墓地造成	926	弥生溝、弥生土坑/弥生土器、古代須 恵器、古代土師
豊田大塚・中吉原 (2010246)	豊田本町1丁目	駐車場構築に伴う土地 造成	408	縄文土器、不明土師器
下富原(2010250) *	下富原1丁目	個人住宅建築	87.86	自然地形/中世土師器
中富原(2010251) *	土蔵野字正岡出	宅地造成に伴う擁壁・ 下水管引込工事	123	古代溝/古代須恵器、古代土師器
中富原(2010251)	磯田	個人住宅建築	232.8	遺跡なし
飯野小百荷 (2010253)	新居字熱田割	個人住宅建築	347.06	江戸陶器

道 路 名 (通 路 名)	所 在 地	調 査 原 因	面 積 (㎡)	調 査 結 果
水橋二杉 (2010262)	水橋二杉	個人住宅建築	650.45	古代溝・奈良須高橋、古代土師器、古代黒色土器、古代土師、江戸磁器、
水橋二杉 (2010262)*	水橋二杉	市道水橋二杉6号線改良工事	80	遺跡なし
水橋金広・中馬場 (2010266)	水橋中馬場	市道水橋金広中馬場線改良工事	100	古墳(前) 周溝、不明ピット、不明土坑・古墳(前) 古式土師器
中老田南IV (2010337)	中老田	駐車場造成	83	遺跡なし
杉谷A(2010404)	杉谷	駐車場造成	900	縄文ピット、赤生(終) 方形周溝墓、古代須賀土坑・細文土器、赤生(終) 赤生土器
友坂(2010429)	中町下本	個人住宅建築	644.04	中世青磁
友坂(2010429)*	中町友坂	市道上友坂2号線改良工事	20	遺跡なし
寺町向田 (2010435)*	寺町	市道寺町2号線改良工事	45	古代土師器
大船城跡 (2010439)	五福字城	共同住宅建築	330.63	遺跡なし
羽根字下立割 (2010440)	羽根字下立割	駐車場造成	142	遺跡なし
鶴坂I(2010441)	中町鶴坂	埋設物調査	462	遺跡なし
鶴坂I(2010441)*	中町鶴坂	個人住宅建築	297.42	遺跡なし
富山城跡 (2010442)	本丸	松川護岸工事	40	江戸護岸遺構/江戸陶磁器、近代陶磁器、近代瓦
富山城跡 (2010442)	丸の内1丁目	富山方面回曲曲輪分固器具埋設改善事業	54	江戸陶磁器、近代陶磁器
富山城跡 (2010442)	総曲輪1丁目	ビジネスポータル建築	477.41	江戸土器、江戸溝/生世土師器、中世瀬戸美濃、江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸瀬戸美濃、近代陶磁器、近代瓦
富山城跡 (2010442)*	丸の内3丁目	ガス幹線調査及びガス配管工事	5.44	江戸盛土、近代石列/江戸越中瀬戸、江戸伊万里、近代瀬戸、近代貝、不明土師器
富山城跡 (2010442)*	本丸	松川護岸工事	21.2	江戸護岸遺構/江戸陶磁器、近代陶磁器、近代瓦、不明石白
富山城跡 (2010442)*	本丸	不明湧水の状況確認のため取掘	5	遺跡なし
千石町(2010444)*	千石町4丁目	分譲宅造成	618.5	江戸溝・縄文土器、江戸越中瀬戸、江戸伊万里、近代陶磁器、近代レンガ、
千石町(2010444)	千石町2丁目	個人住宅建築	357.02	江戸土坑、江戸溝、近代土坑/赤生土器、江戸伊万里、江戸越中丸山池、江戸小杉池、江戸瀬戸美濃、江戸本製品
千石町(2010444)*	千石町4丁目	上下水引込工事	18.44	江戸伊万里、江戸越中瀬戸、近代レンガ、近代陶磁器
千石町(2010444)*	千石町4丁目	個人住宅建築	160.44	江戸伊万里、江戸瀬戸、近代陶磁器、近代瀬戸美濃
千石町(2010444)*	千石町4丁目	電柱建替工事	2.4	江戸伊万里、近代レンガ
千石町(2010444)*	千石町4丁目	個人住宅建築	112.61	赤生溝/赤生土器、江戸越中瀬戸、江戸陶磁器、江戸土人形、近代陶磁器、近代～現代レンガ、不明金属製品
千石町(2010444)*	千石町4丁目	建築住宅建築	107.49	江戸陶器、江戸伊万里、近代瓦、近代陶磁器、江戸～近代しゃく分石
龍本町(2010446)	龍本町字龍山割	共同住宅建築	1,374	赤生田形周溝墓、赤生方形周溝墓/赤生土器
下邑(2010542)	中町下邑	個人住宅建築	269.06	遺跡なし
下邑東(2010543)	中町羽根	個人住宅建築	667.1	遺跡なし
下邑東(2010543)	中町羽根	県営マンション事業	20,200	赤生溝、赤生土坑、赤生ピット、古代瀬戸土坑、古代ピット/赤生土器、赤生碧玉片、古代土師器、古代須賀器、古代瓦、近代磁器
下邑東(2010543)	中町羽根	個人住宅建築	439	遺跡なし

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(㎡)	調査結果
黒瀬大塚 (2010549)	黒瀬字大塚割	共同住宅建築	451	中世珠洲、中世青森、江戸陶器
黒崎種田 (2010550)	黒崎字種田割	資材置場造成	1,271	中世土師器
黒崎種田 (2010550)	黒崎	個人住宅建築	207	江戸越中瀬戸
黒崎種田 (2010550)	黒崎字寺田割	共同住宅建築	721.39	古代土師器、江戸磁器、近代磁器
八日町(2010551)	八日町	宅地造成	1,480	古代須恵器、中世珠洲産、中世土師器、中世八尾産
朝菜町島ノ木 (2010555)	上袋	個人住宅建築	346.96	古代～中世産、古代～中世土坑ノ古須 式土師器、古代須恵器、古代土師 器、中世かわらけ、不明鉄滓
朝菜町島ノ木 (2010555)	上袋	個人住宅建築	254.9	古代～近代川勝ノ古代須恵器、古代土 師器
上野井田 (2010557)	二俣新町	個人住宅建築	276.72	遺跡なし
山室東田 (2010560)	山室字東田割	埋設物調査	242.28	遺跡なし
山室東田 (2010560)	山室字東田割	埋設物調査	191.11	遺跡なし
本郷樺木 (2010561)	本郷町字樺木割	共同住宅建築	872.73	中世土師器、江戸越中瀬戸
太田中田Ⅰ (2010567)	太田	分譲宅地造成	875	奈良整穴建物、奈良土坑、鎌倉土坑、 鎌倉柱穴、鎌倉溝ノ奈良土師器、奈良 須恵器、奈良粉砕土、鎌倉中世土師 器、鎌倉八尾、鎌倉珠洲
大宮町(2010671)	大宮町	個人住宅建築	278	鎌倉中世土師器
富崎(2010604)*	富崎中町富崎	池の造成	9.7	遺跡なし
富崎(2010604)	富崎中町富崎字二俣川	埋設物調査	309	中世土師器
千里D(2010633)	千里中町千里	個人住宅建築	398	遺跡なし
南部Ⅰ(2010636) *	南部中町熊野道	カーポート建築	0.96	遺跡なし
中名Ⅰ(2010646)	中名中町中名字阿赤 大地	個人住宅建築	306.95	遺跡なし
支杉(2010653)	支杉字北桑田割	個人住宅建築	277.9	遺跡なし
下熊野(2010672) *	安養寺	佐田川改良工事	30	遺跡なし
二俣(2010674)	上野	一般国道東横谷富山線 歩道新設	100	遺跡なし
辰尾(2010688)	上熊野	個人住宅建築	288.71	中世土師器
辰尾(2010688)	辰尾字東川割	個人住宅建築	296.5	遺跡なし
上熊野(2010689)	上熊野	農機具格納庫建築	237	遺跡なし
布市北(2010692)	布市	個人住宅建築	203	遺跡なし
布市北(2010692)	布市	個人住宅建築	241.64	遺跡なし
布市北(2010692)	布市	太陽光発電設備	1,030.11	遺跡なし
月岡町3丁目 (2010705)	月岡町3丁目	個人住宅建築	280	江戸陶器
水谷(2010740)	八尾町水谷字鶴殿	個人住宅建築	308.63	遺跡なし
黒田(2010744)*	八尾町黒田	カーポート建築	12.9	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田字古四屋	個人住宅建築	621.23	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田	主要地方道立山山田線 道路橋りょう改築事業	70	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田	主要地方道立山山田線 道路橋りょう改築事業	137.11	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田	主要地方道立山山田線 道路橋りょう改築事業	180	遺跡なし
新村(2010751)	新村	事務所建築	524.88	遺跡なし
大井(2010773)*	大井	市道月岡大井線改良 工事	34	江戸越中瀬戸
徳谷・片掛瀬出 (2011020)*	徳谷	市道徳谷片掛瀬法面 改良工事	347.6	遺跡なし

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
富山城下町遺跡 主要部 (2011048)	熊鷹町	個人住宅建築	150	江戸土坑、江戸越中瀬戸、江戸唐津、 江戸伊万里、江戸瀬戸美濃、江戸木 箸、江戸漆器、江戸瓦、江戸土製品、 江戸貝、江戸瓦、近代陶磁器
富山城下町遺跡 主要部 (2011048)*	蔵木町	屋外展示物設置	0.19	江戸磁器
稲荷砦跡 (2011059)	桑町1丁目	個人住宅建築	173.36	遺跡なし
稲荷砦跡 (2011059)	稲荷町2丁目	個人住宅建築	191.25	遺跡なし
稲荷砦跡 (2011059)	稲荷町2丁目	個人住宅建築	177.13	江戸土坑、明治→大正石組水路/江戸 越中瀬戸、江戸陶磁器、江戸建築部材
稲荷砦跡 (2011059)	節出町1丁目	個人住宅建築	383.37	江戸越中瀬戸、江戸陶磁器、江戸編り 口、江戸漆器(折敷)
稲荷砦跡 (2011059)	稲荷町2丁目	個人住宅建築	135.74	江戸陶器
稲荷砦跡 (2011059)	節出町1丁目	埋設物調査	162.94	中世青磁

令和5年度の計(4~2月)は123件(うち工事立会会*28件)

(3) 令和4年度補遺(3月分)

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
今市(2010023)*	寺島	下水管引込工事	2	江戸伊万里、不明陶器
今市(2010023)	布日西	店舗建築	2,006	遺跡なし
杉谷古墳群 (2010409)*	杉谷	文化財案内板設置	0.381	遺跡なし
羽根下立 (2010440)	羽根	診療所建築	203	中世溝/甕文土器、中世珠洲、中世 瀬戸美濃、不明土師器
富山城跡 (2010442)	総曲輪1丁目	歯科医院兼住宅建築	401.74	中世埴、中世土坑/中世土師器、中 世土師、江戸陶磁器、江戸瓦、近代 陶磁器、近代レンガ、近代動物骨、 近代貝
千石町(2010444)*	相生町	市道陥没に伴う火防 水路布設工事	9	弥生土器、江戸小砂、江戸伊万里、 江戸瓦器、江戸瓦、近代陶磁器
千石町(2010444)	千石町3丁目	分譲宅地造成	623.65	中世溝、江戸溝、弥生~中世地形 /弥生土器、古代須恵器、古代土師 器、江戸越中瀬戸、江戸越中丸山、 江戸唐津、江戸伊万里、近代陶磁 器、近代レンガ、近代ガラス製薬瓶
下邑東(2010654)	堀中町羽根	県営ほろ整備事業羽根 地区	32,237	古代溝、古代土坑、古代ビレット、中 世土坑/古代土師器、古代須恵器、 古代瓦、中世土師器、中世土製品、 江戸陶磁器、近代陶磁器
木瀬水上 (2010562)	木瀬町字水上上溜	埋設物調査	2,779	遺跡なし
秋ヶ島(2010661)	秋ヶ島	個人住宅建築	383	遺跡なし
栗山A(2010668)*	栗山字沢下溜	個人住宅建築に伴う 造成	144.16	平安土師器、平安須恵器、中世土師 器、中世珠洲、中世青磁、江戸越中 瀬戸
上野鍋田 (2010680)*	上野	駐車場造成	69.6	中世ビレット、中世土坑、中世溝、江 戸川跡、江戸瓦/古代土師器、中世 かわらけ、中世珠洲、江戸越中瀬 戸、江戸陶磁器
江本橋塚 (2010701)*	江本	文化財案内板設置	0.381	遺跡なし
春日長非 (2010887)	下夕林	個人住宅建築	125.05	遺跡なし

令和4年度の総計(4~3月)は150件(うち工事立会会*35件)

2 遺跡地図管理

富山市内の史跡・埋蔵文化財包蔵地の総数は1,044ヶ所、総面積は約72.4k㎡です（令和6年2月末現在）。これは市域1,241.70k㎡の約5.9%にあたります。史跡・埋蔵文化財包蔵地は富山市遺跡地図に登録され、埋蔵文化財センター窓口のほか、インターネットでも閲覧することができます。

(1) 令和5年度の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更等（令和5年3月～令和6年2月）

No.	遺跡名（遺跡番号）	面積（㎡）	変更内容
1	米田大覚遺跡（2010034）	182,088	試掘・立会により南側範囲拡大
2	宮桑南遺跡（2010055）	148,180	試掘により南側範囲縮小、南東側範囲拡大
3	下邑東遺跡（2010543）	440,297	現地確認より東側範囲縮小

(2) 遺跡地図のインターネット公開

遺跡地図は、富山市ホームページ「インフォマップとやま」で史跡・埋蔵文化財包蔵地の範囲や名称、所在地等の概要が閲覧できます。建築・造成工事、各種開発、不動産売買の手続き等の参考にしてください。

また、遺跡地図は調査によって遺跡範囲を随時更新していますので、その都度ご確認ください。

閲覧は「インフォマップとやま」検索→「まちづくり情報マップ」→「遺跡地図」の順に進んでください。

閲覧にあたっては利用条件をご確認ください。



スマートフォン版はこちら

インフォマップとやま「遺跡地図」画面

3 史跡の保護・管理

(1) 北代縄文広場

① 管理

A 管理運営委託等

a 管理運営

地元の長岡地区自治振興会に広場の管理運営を委託しました。自治振興会が配置した管理人が広場の管理等を行い、富山市北代縄文広場ボランティアの会が管理等の手伝いや、屋外展示の解説、縄文土器づくり（野焼きを含む）をはじめとした体験学習の手伝いなどを行いました。

b 環境整備

復原竈穴住居の燻し（防虫・湿気対策）、広場の草刈、樹木剪定などは公益社団法人富山市シルバー人材センターに委託しました。その他、機械除草、西広場高木の伐採・剪定や、広場外灯2基・体験工房テーパール脚・電動薪割り機の修繕を行いました。

B 社会に学ぶ「14歳の挑戦」

広場管理運営補助（復原建物の手入れ・体験学習の準備・粘土練り）

速星中学校（3人） 令和5年7月5日

C その他

a 松永篤知氏（金沢大学資料館特任助教）による、タイ北部山地民ラフ・シレー—製作のバスケットテーパール現地住環境での燻し実験に協力しました。

令和5年10月15日～12月15日

b 「越中富山ふるさとチャレンジぐるっと富山ラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）に協力しました。 令和5年7月1日～11月30日

② ミニ企画展

テーマ	期間	主な展示品	来場者数
北代遺跡の 新・出土品展	令和5年7月19日 ～令和6年1月21日	北代遺跡出土 縄文土器 他	3,260人
新春贈り物展 富崎丘陵の縄文時代	令和6年1月23日 ～7月17日	富崎丘陵採集 石林 他	553人 (2月末現在)

③ 普及行事・講座

A 「縄文—ききたい—再発見」北代縄文広場ボランティア入門講座

a 令和5年5月9日 第1回「縄文時代の概要、文化財の保護と活用について」

講師：細辻嘉門専門学芸員 15人参加

b 令和5年5月16日 第2回「北代遺跡の見どころとボランティア活動のあらまし」

講師：西村盛一氏（北代縄文広場ボランティア代表） 15人参加

c 令和5年5月25日 第3回「体験活動の実践—縄文土器づくり・コースターづくり・紙芝居などの実技体験研修—」講師：中林美智子氏、中西登代子氏、山本純子氏ほか
北代縄文広場ボランティア 15人参加

B 北代縄文考古学講座

a 令和5年8月27日 その1「とやまの弥生時代—新・出土品展の資料から—」

講師：細辻嘉門専門学芸員 15人参加

b 令和5年10月15日 その2「とやまの縄文時代編物」

講師：松永篤知氏（金沢大学資料館特任助教） 24人参加

④長岡地区等行事

A 長岡地区ふるさとづくり推進協議会

鯉のぼり掲揚 令和5年4月28日～5月7日

縄文冬まつり（世代間交流行事） 令和6年1月13日



⑤来場者数

年度	個人	団体	合計	土器づくり 体験	縄文グッズ づくり体験	縄文コースター づくり体験	
令和3	6,161人	366人	6,527人	新型コロナウイルス感染症 感染防止のため中止			
令和4	6,071人	461人	6,532人		74人	35人	5人
令和5 (令和5年2月末現在)	6,507人	475人	6,982人		123人	115人	20人

(参考) 平成11年4月～令和6年2月末の来場者数累計219,162人

(2) 安田城跡歴史の広場

①管理

A 管理等

a 管理

管理人1人が常駐し、資料館及び広場の管理や来場者への案内等を行いました。

b 環境整備

清掃業務及び広場の環境整備（芝刈・樹木剪定・除草・睡蓮間引き）は、公益社団法人富山市シルバー人材センター及び財団法人富山市婦中公園緑地管理公社に委託しました。この他、資料館北側隣接私道舗装修繕や、資料館男子トイレ洋式便器フラッシュユバルブ等取替修繕、歴史の広場の排水管等修繕を行いました。

B 社会に学ぶ「14歳の挑戦」

資料館及び広場管理運営補助（広場維持管理作業・資料館館内環境整備作業）

連星中学校（3人） 令和5年7月4日

C その他

「越中富山ふるさとチャレンジぐるっと富山ラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）に協力しました。 令和5年7月1日～11月30日

②ミニ企画展

	テーマ	期 間	主な展示品	来場者数
1	とやまお城探検隊 Part2（富山市南東部）	令和5年7月11日 ～12月3日	北日本新聞： とやまお城探検隊掲載記事	6,732人

③普及行事・講座

A 歴史講座 その1

令和5年7月30日 「太田保と中世富山を考える」

講師：加藤達行氏（元富山市郷土博物館館長） 20人参加

B 歴史講座 その2

令和5年11月11日

第1部 講座「安田城 一戦国越中を見つめた城一」 講師：富田康之主任学芸員

第2部 安田城跡再整備工事現場見学 講師：近藤匡志氏（株式会社イビソク まち
づくり事業本部整備推進課課長）、大野英子主幹学芸員 13人参加

④地域等における史跡活用

A 富山大学教育学部授業「子どもとのふれあい体験」

令和5年7月5日、12日

場所：安田城跡歴史の広場、朝日小学校

参加者：富山大学学生6人、朝日小学校6年生13人、

教員、当センター職員

内容：富山大学による安田城や再整備事業をテーマとした授業。朝日小学校の総合的な学習の

時間にて実施。

B 第31回安田城月見の宴（安田城月見の宴実行委員会）

令和5年8月26日

内容：少年少女武者行列入場、剣詩舞、YOSAKOI IN
婦中祭り、花火等



「子どもとのふれあい体験」の様子



⑤来場者数

年度	個人	団体	合計
令和3	17,060人	0人	17,060人
令和4	17,398人	67人	17,465人
令和5(令和6年2月末現在)	12,468人	86人	12,554人

(参考) 平成5年度～令和6年2月末の累計来場者数 336,203人

(3) 史跡王塚・千坊山遺跡群

①維持・管理

A 倒木処理・樹木伐採

千坊山遺跡では、倒木等の転落による事故などを未然に防止するため、倒れた樹木の伐採・搬出等を行いました。

B 除草管理

千坊山遺跡・六治古塚墳墓・向野塚墳墓・勅使塚古墳（市有地約59,504㎡）の除草を、公益社団法人富山市シルバークリーンセンターへの業務委託により実施しました（6～11月）。

(4) 堀I遺跡

①婦中熊野地区等行事

A 婦中熊野地区ふるさとづくり推進協議会

令和5年度婦中熊野地区左義長 令和6年1月14日



婦中熊野地区左義長の様子

(5) 史跡等の巡視及び管理

①文化財パトロール

富山県が委嘱した文化財保護指導委員による定期的な史跡、埋蔵文化財等の巡視。

安田城跡、直坂遺跡、北代遺跡、王塚・千坊山遺跡群、猪谷関跡、金草第一古窯跡、

東黒牧上野遺跡、越中丸山焼陶窯跡、面白寺跡、五輪塔、五百羅漢、中地山城跡及び殿様馬栗石、上滝不動尊境内、題目塔と道標、五輪塔古石塔群(野尻)、五輪塔古石塔群(船原)、伝高山重忠墳墓、城生城跡

②除草・環境整備

公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により、下記の場所での除草や環境整備を実施しました。

堀1遺跡(6・8・10月)、友坂二重不整合(6・8月)、押上遺跡(6月)、栗山塚(6・8月)、古沢塚山古墳(7月)、境野新遺跡(6月)。

4 展示・普及

(1) 展示

発掘速報展 2023

「海抜2mから2926mの遺跡 ～島と山岳信仰～」

- ・会場：安田城跡資料館
- ・期間：令和5年12月5日～令和6年7月7日
- ・展示遺跡：四方背戸割遺跡、四方荒屋遺跡、水橋金広・中馬場遺跡、栗師岳山頂遺跡

・主な展示品：

【四方背戸割遺跡、四方荒屋遺跡】

弥生土器・土師器・須恵器・白磁・中世土師器・珠洲・石鏡・打製石斧・土鏡

【水橋金広・中馬場遺跡】

弥生土器・土師器・須恵器・灰軸陶器・中世土師器・珠洲・錢貨

【栗師岳山頂遺跡】

青磁・奉納剣(模造剣)・刀子・釘・錢貨・銅材

・入館者数：2,025人(令和6年2月未時点)

・記念講演会 令和6年2月23日

記念講演会 「栗師岳に魅せられて～半世紀ぶりの栗師堂再建～」

講師：五十嶋博文氏(太郎平小屋オーナー)



発掘速報展の展示状況

(2) 関係施設の企画展

①富山市考古資料館(民俗民芸村所管)

テーマ	期間	主な展示品	来館者数
連携企画展「杉谷古墳群・杉谷A遺跡の全貌～日本海文化圏の現在～」	令和5年9月30日 ～11月28日	杉谷A遺跡出土遺物	937人

②富山県埋蔵文化財センターとの共催

テーマ	期間	主な展示品
令和5年度「市町村連携発掘速報展」	令和6年2月3日 ～4月4日	明神山遺跡(令和5年度調査出土遺物)。 近世陶磁器・瓦・硯・煙管・髷・銅銭

(3) 講座

①富山市民大学(富山市民学習センター主催)

墳墓・古墳・お墓の考古学

回	講師	学習題	開催日
1	堀沢祐一所長	まじないとお墓	5月12日

2	納屋内高史学芸員	お墓と縄文人	5月26日
3	泉田侑希学芸員	弥生墳墓から古墳へ	6月9日
4	鹿島昌也主幹学芸員	神通川左岸の墳墓群—百塚墳墓群—	7月1日
5	泉田侑希学芸員	杉谷丘陵の墳墓群—杉谷古墳群—	7月14日
6	堀内大介主幹学芸員	羽根丘陵の墳墓群—史跡王塚・千坊山遺跡群—	9月8日
7	鹿島昌也主幹学芸員	富山平野の古墳群—白岩川流域古墳群など—	9月22日
8	野垣好史主幹学芸員	呉羽丘陵の横穴墓	10月6日
9	堀内大介主幹学芸員	中世のお墓—堀1遺跡など—	10月20日
10	野垣好史主幹学芸員	富山藩主前田家墓所—長岡御廟—	11月10日

生活文化の歴史（食・住の文化史）

回	講師	学習題	開催月日
7	堀沢祐一所長	すまいとまじない	9月28日

②市役所出前講座

遺跡からみた富山の歴史

回	講師	演題	主催者/会場	参加者数	開催日
1	野垣好史 主幹学芸員	小長沢地区の遺跡試掘調査/明神山遺跡の発掘調査	小長沢自治会いきいきサロン/ 小長沢公民館	20	4月14日
2	堀沢祐一 所長	富山市北部の遺跡探訪	市公連第4プロック協議会/ 岩瀬カナル会館	42	4月19日
3	細辻嘉門 専門学芸員	縄文時代の概要・文化財の保護と活用について	長岡自治振興会/長岡公民館	15	5月9日
4	堀内大介 主幹学芸員	富山のお城	みなかみ会/木郷町4区公民館	15	6月27日
5	細辻嘉門 専門学芸員	王塚・千坊山遺跡群、富崎城跡について	神保地区ふるさとづくり推進協議会/神保公民館	20	11月21日
6	野垣好史 主幹学芸員	富山城址調査から	藤田石装株式会社石昌会/ 藤田石装株式会社	30	1月12日

③県民カレッジ連携講座 雷鳥会「21世紀講座」『古代の道と神と仏』

回	講師	演題	主催者/会場	開催日
1		古代道路とまじない		9月7日
2	堀沢祐一 所長	古代越中国の仏教信仰	県民カレッジ友の会「雷鳥会」/ 富山県教育文化会館	10月19日
3		顔が描かれた土器のまじない		11月2日

(4) その他

マスコミ取材対応

- A 北日本新聞社・富山テレビ「大山歴史民俗資料館ミニ企画展「栗師堂—令和の再建—」について」
野垣主幹学芸員 令和5年5月1日・6月22日
- B チューリップテレビ「北代縄文展について」 細辻専門学芸員 令和5年8月8日
- C 上婦負ケーブルテレビ「北代縄文館ミニ企画展「新常陸品展 富崎丘陵の縄文時代」について」
細辻専門学芸員 令和6年1月23日
- D 富山シティエフエム「発掘速報展2023「海抜2mから2926mの遺跡」および安田城跡について」
堀内主幹学芸員・野垣主幹学芸員・富田主幹学芸員 令和6年2月6日

5 刊行物

(1) 発掘調査報告書

- №.111 富山市四方戸朝遺跡・四方荒屋遺跡発掘調査報告書 (2023.9)
№.112 富山市中富居遺跡発掘調査報告書 (2023.11)
№.113 富山市任海宮田遺跡発掘調査報告書 (2024.2)
№.114 富山市今市遺跡発掘調査報告書 (2024.3)
№.115 富山市米田大覚遺跡発掘調査報告書 (2024.3)

(2) PR誌・展示図録等

- 『富山市の遺跡物語』№.25 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 (2024.3)
『北代縄文通信』第52号 (2024.3)

6 活用

(1) 出土品貸出

	貸出先	展示名	展示期間	資料名
1	富山市郷土博物館	常設展「各地の中世城館出土品 願海寺城」	R5.4.1 ～9.30	願海寺城発出土の遺 物10点、写真2点 吉作遺跡出土の遺物1 点、北代遺跡出土の遺 物1点、写真1点、友 坂遺跡出土の遺物10 点、写真1点、明神山 遺跡出土の遺物16点、 写真1点
2	富山市陶芸館	令和5年度陶芸館連携企画展 「呉羽丘陵のやきもの6000年」	R5.9.8 ～11.8	番神山横穴墓群出土 の遺物8点、写真3点、 富崎墳墓群出土の遺 物4点、写真4点、百 塚住吉遺跡の写真4 点、百塚住吉遺跡・百 塚遺跡の写真1点、千 坊山遺跡の写真1点、 王塚古墳の写真1点
3	富山県埋蔵文化財 センター	令和5年度特別展「黄泉つ国か らー富山の古墳時代ー」	R5.10.6 ～R6.1.25	

(2) 写真等資料掲載

- ① 杉谷A遺跡の発掘調査写真8点、杉谷4号墳の発掘調査写真2点 令和5年度民俗民芸村連
携企画展 富山市考古資料館「杉谷古墳群・杉谷A遺跡の全貌ー日本海文化論の現在ー」(令
和5年9月30日～11月28日)で展示
② 安田城跡歴史の広場の写真1点 南砺市民大学「ふるさと見聞」配布パンフレット(令和5
年10月27日刊行)に掲載
③ 明神山遺跡出土伊万里焼の写真1点 令和5年度市町村連携発掘連報展(令和6年2月3日～
4月4日)のパンフレット・ポスターに掲載
④ 堀1遺跡の発掘調査写真1点・整備写真1点 富山市考古資料館「堀1遺跡とその出土遺物」
で展示(令和5年12月2日～)
⑤ 北代遺跡出土の打製石斧写真1点・磨製石斧写真1点 中学受験専門塾ジーニアスの社会の
授業で活用
⑥ 針原中町1遺跡出土弥生土器の写真1点、経力遺跡出土弥生土器の写真1点、豊田大塚・中吉
原遺跡出土弥生土器の写真2点、清水堂南遺跡出土弥生土器の写真3点 『日本における覆い
焼きの成立と展開』に掲載

⑦岩瀬天神遺跡出土土器の写真 99点、朝日貝塚出土縄文土器の写真 9点 『滋賀県遺跡資料図譜』に掲載

(3) 資料調査・見学等

- ①令和5年4月25日
チュニジア駐日大使モハメッド・エルーミ氏ほか5名 北代縄文広場・北代縄文館
- ②令和5年5月1日
東京大学総合研究博物館 米田藤氏 日本考古学協会・長野県考古学会 中次道彦氏
吉岡遺跡・北代遺跡・浜黒崎野田・平槻遺跡出土土器及び付着炭化物
- ③令和5年8月9日
東京大学埋蔵文化財調査室 堀内秀樹氏 同志社大学創造経済研究センター 前田厚子氏
富山藩主前田家墓所（長岡御廟所）現地見学
- ④令和5年9月28日
北海道大学大学院 平岡和氏 八町Ⅱ遺跡・水橋金広・中馬場遺跡・富崎遺跡・富山城跡・富山城下町遺跡主要部出土ニワトコ核
- ⑤令和5年11月6日・7日・9日
上野章氏 古沢A遺跡出土縄文土器
- ⑥令和5年11月7日
富山大学 黒岩美晴氏 浜黒崎野田・平槻遺跡・野中新長福遺跡・高島浦遺跡・宮桑南遺跡・兵羽富田町遺跡・北代遺跡・開ヶ丘孤谷Ⅲ遺跡・開ヶ丘孤谷Ⅱ遺跡・開ヶ丘中遺跡・龍尾Ⅱ遺跡出土土製耳飾
- ⑦令和6年1月18日
石川県金沢城調査研究所 富田和氣夫氏 富山城跡・富山藩主前田家墓所（長岡御廟所）における令和6年能登半島地震の被害状況現地確認

7 調査研究

(1) 調査協力・共同研究

- ①石川県金沢城調査研究所
令和5年10月24日 令和5年度第1回金沢城関連連絡部等情報連絡会「金沢城跡二ノ丸御野・二ノ丸御居間先の確認調査、丸の内園地石垣保全に伴う確認調査」の見学
野垣好史主宰学芸員
- ②公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
令和6年2月21日～22日 令和5・6年度 環日本海文化交流史調査研究事業
令和5年度研究集会 細辻嘉門専門学芸員

(2) 論文・報告・紹介 富山市内の遺跡に関連するものを含む

①関係職員等

- 小黒野久 2023.4『コシの古墳と地域社会』 雄山閣
- 小黒野久 2023.11『豊かな教育の広がり 151 地域の歴史と文化を伝え、共に学び、育む 富山市民俗芸芸科』『初等教育資料』2023年11月号 文部科学省教育課程課・幼児教育課
- 鹿島昌也 2023.7『富山県地方史研究の動向』『信濃』第75号7巻 信濃史学会
- 鹿島昌也 2023.9『珠洲地震による文化財への影響と遺跡確認調査路報-岡田横穴墓群・岩坂亀塚横穴群・岩坂向林横穴群』『石川考古』No.387 石川考古学研究会
- 鹿島昌也 2023.12『回顧 考古学』「北日本新聞 令和5年12月21日付朝刊」北日本新聞社
- 鹿島昌也 2024.3「令和6年能登半島地震における埋蔵文化財の被災状況について-富山藩主前田家墓所と富山城跡-」『富山市の遺跡物語』№25 富山市埋蔵文化財センター
- 鹿島昌也 2024.3「岩坂塚横穴群・岩坂向林横穴群」『令和5年奥能登地震による遺跡等の損害状況確認調査報告書』石川考古学研究会・珠洲市
- 仲あずみ 2024.3「富山市八尾町高善寺地内出土の埋蔵銭について(その2)」『富山市の遺跡物語』№25 富山市埋蔵文化財センター

- 仲あずみ 2024.3「富山県内における六道銭について」『富山市の遺跡物語』№25 富山市埋蔵文化財センター
- 納屋内高史 2024.3「小竹貝塚の哺乳類遺存体（予報）」『富山市考古資料館紀要』第43号
- 納屋内高史 2024.3「北代遺跡 2002年度調査報告 遺物補遺」『富山市の遺跡物語』№25 富山市埋蔵文化財センター
- 野垣好史・小黒智久 2024.3「杉谷A遺跡出土鉄器について」『富山市の遺跡物語』№25 富山市埋蔵文化財センター
- 野垣好史・納屋内高史 2024.3「松川護岸工事に伴う富山城跡踏査調査・工事立会報告」『富山市の遺跡物語』№25 富山市埋蔵文化財センター
- 堀沢祐一 2024.3「富山城下町遺跡主要部における井戸のまじない」『富山市の遺跡物語』№25 富山市埋蔵文化財センター
- ②市内遺跡を取り扱ったもの
- 池野正男 2024.3「飛鳥時代の須恵器生産開始期における須恵器工人の出自—土師器を模したロケット形甕の系譜から—」『大境』第42号 富山考古学会
- 出穂雅美 2023.3「富山県の後期旧石器時代の年代：日本列島への現生人類の出現と拡散を考えた」とっておき理文講座②『理文とやま』VOL.162
- 上野 章 2023.3「富山県の早期押型文土器と茅山下層式土器について」『大境』第42号 富山考古学会
- 大野光司 2024.3「飛鳥時代の氷見地域—横穴群と集落—」『富山市考古資料館紀要』第43号
- 金三好達子 2023.3「県営・国営農地整備事業の試掘調査」とっておき理文講座②『理文とやま』VOL.162
- 鈴木 仁 2023.7「サハリンで発掘されたオリエントビツピク意匠の陶磁器」『文化情報』vol.394
- 木一 2023.7「北海道文化財保護協会
- 高橋浩二・石田理紗・星野佑希・宮澤達也 2023.3「富山市杉谷A遺跡及び杉谷4号墳出土土器の試掘調査とその評価」『大境』第42号 富山考古学会
- 富山県埋蔵文化財センター 2023.10「令和5年度特別企画展図録 黄泉つ国から」
- 富山県大山歴史民俗資料館 2023.9「令和5年度企画展 とやまの山城—大山地城編—」
- 西井龍雅・田上和彦 2023.3「越中の小金銅仏補遺 2021～2022」『大境』第42号 富山考古学会
- 森原大輔 2023.8「佐々成政」 戎光祥出版
- 藤田富士夫 2023.9「杉谷4号墳と日本海文化シンポジウム」『季刊 古代文化』第75巻第2号 古代学協会
- 麻崎一英 2023.3「北陸地方における縄文集落周辺の植生—縄文時代のクリ栽培の可能性—」『大境』第42号 富山考古学会
- 松山充宏 2023.10「桃井直常とその一族 鬼神の如き堅忍不拔の勇将」 戎光祥出版
- 宮代栄一 2024.3「北陸地方出土馬具の研究（中）—石川県・福井県（嶺北）出土例を中心に—」『富山市考古資料館紀要』第43号
- ③報告書など
- 富山県埋蔵文化財センター 2023.3～2023.12「小竹貝塚出土品」『理文とやま』VOL.162～165

(3) 講演・研究発表 富山市内の遺跡に関連するものをむ

- 五十嶋博文「薬師岳に魅せられて～半世紀ぶりの薬師堂再建～」安田城跡資料館 記念講演会
令和6年2月23日
- 鹿島昌也・栗田信希「北陸のレンガ研究事始め」令和6年度富山考古学会総会研究報告
令和6年1月27日
- 加藤達行「太田保と中世富山を考える」安田城跡資料館 歴史講座その1 令和5年7月30日
- 納屋内高史「骨から見た境遺跡の哺乳類利用」令和5年度朝日学講座 令和6年2月23日
- 野垣好史・鹿島昌也「薬師岳山頂遺跡 工事立会報告/展示解説」安田城跡資料館
令和6年2月23日
- 平岡 和「東北日本における遺跡出土ニワトコ属核の形態分析」第38回日本植生史学会大会
令和5年12月3日
- 細辻嘉門「史跡北代遺跡の再整備について」第47回全国遺跡環境整備会議 令和5年10月19日
- 細辻嘉門「富山県の高地性集落について」令和5・6年度 環日本海文化交流史調査研究事業
研究会 令和6年2月22日
- 細辻嘉門「とやまの弥生時代—新・出土品展の資料から—」北代縄文考古学講座その1

はじめに

個人住宅建設に伴って 2003 年 2 月に行われた北代遺跡の発掘調査報告が 2023 年 3 月に刊行された（近藤他 2023）。この調査では、縄文時代の粘土探掘坑と墓または祭祀遺構、土坑、ピット、古代の鍛冶関連の堅穴建物と掘立柱建物、土坑、ピット、溝が検出されており、縄文土器、石器、須恵器、土師器等が出土した。この内、特に縄文土器、石器は出土量が膨大であり、紙幅等の都合上、掲載できなかったものが多数存在する。

本稿では、2003 年度調査出土の縄文土器の未報告資料の内、重要と考えられる資料をいくつか紹介したうえで、若干の考察を行い、報告書の補遺としたい。

1 北代遺跡 2023 年報告の補遺遺物

今回報告する資料は、報告書に掲載できなかったものうちの、縄文土器 19 点である。粘土探掘坑 SK03、04、SK01 から出土したものがほとんどであるが、古代の堅穴建物である S101 とそれに付属する鍛冶炉 SK08 の埋土に混入していたものも含まれる。

1 から 3 は中期の土器である。1、2 は新輪式と考えられる。1 は深鉢または台付鉢で、口縁部に蓮花文、口縁部～頸部に横方向の半隆起線文、胴部に半截竹管による縦方向の隆線文を施す。2 は深鉢で、口縁部～頸部に横方向の半隆起線文、口縁部半隆起線文上に半截竹管の刺突による刻み、口縁下部に半截竹管による縦方向の隆線文を施し、注口状把手を付ける。3 は串田新式の深鉢または台付鉢の把手である。肥厚隆帯から狭く隅丸形状突起の頂部に 2 重の凹形刺突を施し、隆帯上に葉脈状文を施す。

4 から 11 は後期および後期の可能性のある土器である。4 は気屋式直前段階の深鉢が、ナデ調整を施した後、沈線により J 字文を施す。5 は気屋式の深鉢である。口縁から頸部に縦条痕を施し、胴部に平行沈線を施した後、刺突文を充填する。6 は堀之内式の深鉢である。口縁部に粘土粗貼付による隆帯を施し、波頂部に渦巻状取手を作出する。7 は加曽利 B1 式の注口土器の取手である。形状からイノシモチーフの動物意匠の可能性がある。8、9 は酒見式の浅鉢である。8 は胴部ナデ調整で、口縁部に沈線で区画された文様帯を設け、非結節羽状縄文を施す。波頂部に中央に溝を持つ瘤状突起を設け、瘤状突起の溝周辺には煤が付着する。ランプとして用いた可能性がある。9 は胴部ナデ調整で、口縁部を屈曲させ、上部に凹形刺突、下部に平行沈線により区切られた壺状工具による刺突を施す。布尻遺跡に類似がある。10 は後期の可能性のある台付鉢である。屈曲部に平行沈線を施し、上部を赤彩する。11 は後期後葉から末葉か。胴部が張り出し、沈線と磨り消しにより斜め方向を基調とした文様を施す。近藤他(2023)の第 21 図 21 と関連する可能性がある。赤彩されている。

12 から 19 は晩期および晩期の可能性のある土器である。12 は晩期の可能性のある資料である。口縁部に棒状工具の押し引きによる刻みを施し、縄文地に沈線を用いて施す。13 は御経塚式の可能性のある浅鉢である。薄手で口唇部は弱い波状を呈し、ヘラ状工具による刻みを施す。胴部はナデ調整で、沈線による連弧状文様を施す。赤彩されている。岩瀬天神遺跡や本江遺跡に類似がある。14 は中屋式の蓋である。取手部は 7 か所の突起を持つ星型を呈する。15 から 19 は晩期末の資料である。15 は集合沈線により連弧文に近い三角文を施す資料で、吉岡遺跡の VIIb 類に相当する。16 から 18 は胴部上半に太い株状工具の文様が施される一群である。吉岡遺跡の IV 類に相当する。16 は胴部上半に太い株状工具を用いた平行沈線を施し、もともと上の沈線内部に列点文、平行沈線の下部にメガネ状浮文を施す。17 は短頸蓋で外面は赤彩される。大洞 C～A 式併行と考えられる。18 は浮線網状文を施した

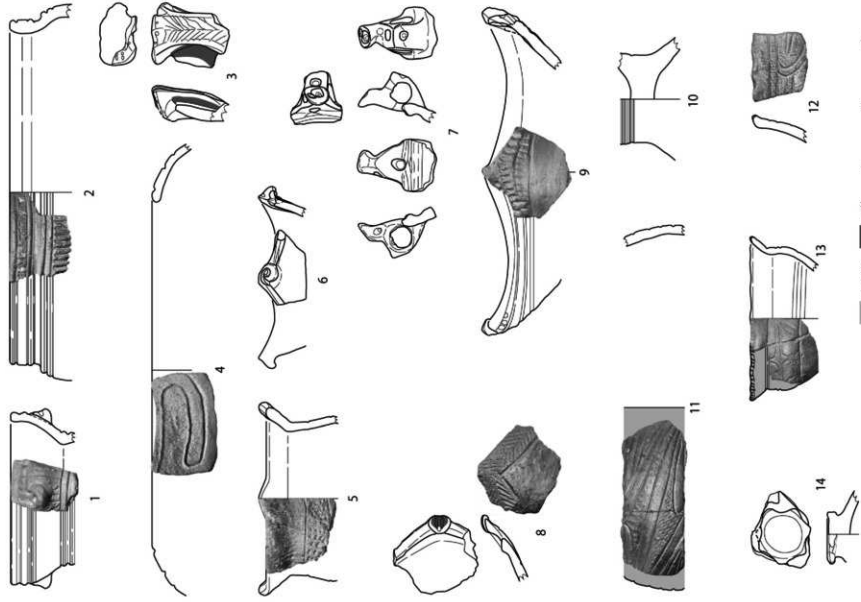


图 1 出土陶文器实测图 (1)

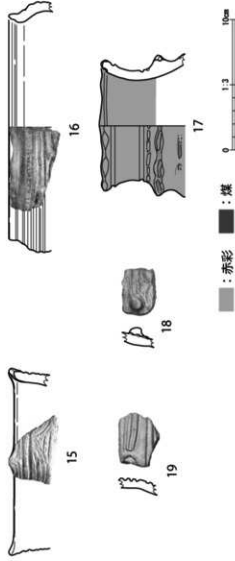


図2 出土縄文土器実測図(2)

表 出土縄文土器観察表

番号	出土遺跡	遺跡時期	器種	口径	高さ	底径	底形状	備考
1	S304	縄文 粘土器類	鉢鉢	12.8	(5.1)	(5.1)	FS197977/AL2,JA1,遺棄	新形式 口縁部輪状突起付
2	S407	縄文 野付瓦	野付半円形鉢	24.5	(4.3)	1	FS197977/2L1,JA1,遺棄→1979M2/2L1,遺棄 FS197977/2L1,JA1,遺棄→1979M2/2L1,遺棄	新形式
3	S504	縄文 粘土器類	鉢鉢(半円形鉢)		(6.0)	(6.0)	FS197977/2L1,JA1,遺棄	新形式
4	S506	縄文 野付	野付	24.6	(3.1)	(3.7)	FS197977/2L1,JA1,遺棄	新形式(新形?) 注脚により浮穴を施文
5	S303	縄文 粘土器類	鉢鉢	13	(6.2)	(6.4)	FS197977/2L1,JA1,遺棄→1979M2/2L1,JA1,遺棄 FS197977/2L1,JA1,遺棄→1979M2/2L1,JA1,遺棄	新形式 口縁一部に凹線施 胴部に平行凹線 胴部により浮穴を施文
6	S406	縄文 野付	野付	12.8	(3.4)	(3.6)	FS197977/2L1,JA1,遺棄→579M1/2L1,遺棄	新形式 胴部中央に浅部凹線を帯り出す
7	S302	縄文 粘土器類	口口上蓋	(6.2)	(6.0)		FS197977/2L1,JA1,遺棄→579M1/2L1,遺棄	新形式 野付形 野付部をイナコチヤキフの形跡を呈す
8	S303	縄文 粘土器類	鉢鉢	(3.4)	(3.4)	(3.4)	FS197977/2L1,JA1,遺棄	新形式 野付部中央に浅部凹線を帯り出す ランプにより浮穴を施す
9	S302	縄文 粘土器類	鉢鉢	24.2	(6.2)	(6.0)	FS197977/2L1,JA1,遺棄→1979M2/2L1,JA1,遺棄	新形式 上部に平行凹線、下部に平行凹線により反転された凹線状工具による凹線
10	S304	縄文 粘土器類	野付付鉢	(4.9)	1		FS197977/2L1,JA1,遺棄→1979M2/2L1,JA1,遺棄 FS197977/2L1,JA1,遺棄→1979M2/2L1,JA1,遺棄	新形式
11	S303	縄文 粘土器類	鉢鉢	(4.4)	(3.7)	(4.4)	FS197977/2L1,JA1,遺棄	新形式から変形 外縁部を 2段凹線状に成形する
12	S303	縄文 粘土器類	鉢鉢	(4.3)	(6.0)	(6.2)	FS197977/2L1,JA1,遺棄	新形式? 口縁部に浅部凹線 胴部により凹線状の溝
13	S303	縄文 粘土器類	鉢鉢	12.9	(6.4)	(6.4)	FS197977/2L1,JA1,遺棄	新形式
14	S303	縄文 粘土器類	鉢鉢	4.4	(2.5)	(2.6)	FS197977/2L1,JA1,遺棄→1979M2/2L1,JA1,遺棄	新形式
15	PF4	縄文 土片	鉢鉢	13	(3.3)	(3.0)	FS197977/2L1,JA1,遺棄→1979M2/2L1,JA1,遺棄	新形式 胴部中央に浅部凹線 胴部により凹線状の溝
16	S303	縄文 粘土器類	鉢鉢(野付鉢)	17	(3.5)	(3.4)	FS197977/2L1,JA1,遺棄→1979M2/2L1,JA1,遺棄	新形式 胴部中央に浅部凹線 胴部により凹線状の溝
17	S303	縄文 粘土器類	野付付鉢	5.2	(6.4)	(6.7)	FS197977/2L1,JA1,遺棄→259M2/2L1,遺棄	新形式 胴部中央に浅部凹線 胴部により凹線状の溝
18	S304	縄文 粘土器類	野付付鉢	(2.6)	(3.1)	(3.1)	FS197977/2L1,JA1,遺棄→1979M2/2L1,JA1,遺棄	新形式 胴部中央に浅部凹線 胴部により凹線状の溝
19	S302	縄文 粘土器類	野付付鉢	(3.1)	(3.1)	(3.1)	FS197977/2L1,JA1,遺棄	新形式 胴部中央に浅部凹線 胴部により凹線状の溝

後、瘤状突起を貼り付ける。19は沈線による工字文が施される。工字文の槽円形に区画された部分の内部に1条の沈線が施される。吉岡遺跡のVa類に相当する。

2 2002年度調査出土縄文土器から見た北代遺跡

2003年2月に行われた北代遺跡発掘調査(以下北代遺跡2002年度調査)では、粘土探掘坑を中心に、多量の縄文土器が出土した。

今回報告したものも含め、出土した縄文土器は、中期前葉から晩期終末にわたる。しかし、量的にまとまったりしているのは中期末以降のものであり、特に中期末の串田新式と晩期後葉の下野式とみられる条痕文土器が多い。北代遺跡周辺の縄文時代集落については、これまでに中

期前葉から中期末にかけて集落が西から東へ移動していくことが指摘されているが（野垣2014）、北代遺跡2002年度調査で出土した土器の様相は、中期末以降、北代遺跡の立地する長岡台地中央部で安定して集落が形成されたようになったことを示す。

また、中期末以前の資料については、在地の土器がほとんどを占めるが、後期以降になると6、7の塊之内、加曾利B系や16から18の浮線文系のような外来系の土器やその影響を考えられる土器が目立つようになる点は注目される。このことは後期以降、本遺跡の集落において他地域との交流が盛んになったことを示すと考えられる。

最後に出土した晩期末の土器について触れておく。北代遺跡2002年度調査では15や近藤他(2023)の第22図39の様な沈線を用いて三角文やそれに類似する文様を施す資料が見られた。このような文様の資料は、近隣では吉岡遺跡等、少数の遺跡でしか知られておらず、吉岡遺跡の報告では晩期後葉の下野式や弥生時代前期の柴山出村式を襲ぐ時期の資料と位置付けられている。吉岡遺跡では、このような資料とともに浮線文系の文様や沈線による工字文を施した資料も出土しており、本遺跡の晩期末の様相と近似しない。また、時期は若40の様な飛騨地方でみられる流水形を持つ資料は出土していない。また、時期は若干下ると考えられるが、北代遺跡では近藤他(2023)の第22図41の変容壺が出土している点も注目される。このことから、北代遺跡2002年度調査出土の晩期末資料は、吉岡遺跡出土資料とともに、富山平野周辺に独自の土器文化が存在していたことを示唆する資料といえ、北代遺跡が富山平野周辺における縄文・弥生移行期を考える上で重要な位置を持つことを示す資料といえる。

おわりに

以上、北代遺跡2002年度調査出土の縄文土器の内、重要と考えられる資料をいくつか紹介したうえで、出土縄文土器の様相から若干の考察を行った。長岡台地や北代遺跡における集落の展開や縄文・弥生移行期における北代遺跡の重要性を確認できたが、課題は山積みである。今後、土器以外の資料も含めた総合的な分析により、本遺跡の時期的変遷や長岡台地における縄文時代集落の展開を考えてゆくことが必要であろう。

注 資料の撮影画像の作成には、『ひかり拓本』アプリ（奈良文化財研究所提供）を用いた。

謝辞 本稿をまとめるにあたり、町田賢一氏（富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課）には、資料の位置づけ等について助言をいただいた。末筆ながら御礼申し上げます。

参考文献

- 真盛遺跡調査団編 1986 『真盛遺跡』、能都町教育委員会、482pp。
山本正敏他 1991 『北陸自動車道遺跡調査報告 一朝日町編6 境A遺跡土器編一』、富山県教育委員会
折原洋一・古川知明・堀沢祐一 2002 『富山市吉岡遺跡・経路遺跡発掘調査報告書—珠泉ニュータウン造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告一』富山市埋蔵文化財調査報告122、富山市教育委員会、94pp。
古川知明 2005 『廣島先生と岩瀬天神遺跡』『大塚』25、富山考古学会、pp.63-76。
小林達夫編 2008 『総覧 縄文土器』、アム・プロモーション、1322pp。
野理好史 2014 『北代村巻Y遺跡』『富山市内遺跡発掘調査概要XI 一北代村巻Y遺跡 友坂遺跡 吉作遺跡一』富山市埋蔵文化財調査報告61、富山市教育委員会、pp.1-25。
島田美佐子・町田賢一・中村由克・坂上和弘 2019 『布尻遺跡』、富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務局、602pp。
近藤顯子・堀内大介・納屋内高史 2023 『富山市発掘調査概要 23 - 北代遺跡 呉羽富田町遺跡 - 』富山市埋蔵文化財報告110、富山市教育委員会、79pp。
小島俊彰 1979 『本江遺跡』、『清川市史 考古資料編』、清川市、pp.9-185。

野垣 好史 (埋蔵文化財センター 主査学芸員)
 小黑 智久 (富山市考古資料館 主幹学芸員)

はじめに

富山市考古資料館では、令和 5 年度民俗民芸村連携企画展「兵羽丘陵「兵羽丘陵」の一環として、企画展「杉谷古墳群・杉谷 A 遺跡の全貌～日本海文化論の現在～」(会期：9 月 30 日～11 月 28 日)を開催した。同展では、両遺跡の常設展示資料に加え、近年の富山大学人文学部考古学研究室による杉谷古墳群(4号墳・1番塚古墳)・杉谷 A 遺跡出土土器の調査成果(高橋ほか 2022)も踏まえて、可能な範囲で収蔵資料(常設展示非公開資料)を提示し、福井市原目山墳墓群・小羽山 30 号墓、金沢市下安原海岸遺跡といった北陸の遺跡出土資料などとの比較展示をとおして、近年の研究動向と今後の検討課題を紹介した(小黑 2023b)。その際、埋蔵文化財センターも調査写真の提供などに協力した。

杉谷 A 遺跡出土鉄器については、発掘調査報告書(富山市教育委員会 1974・1975、以下、報告書とする)の発行後もさまざまな研究論文等で未報告資料の実測図の提示を含めて言及されてきた。例えば、本報告で実測図を提示する品目との関連資料に限っても、鉄素材(林・佐々木 2001、図 6)、ヤリガンナ(小黑 2003、第 6 図)などがある。

本報告は、先行研究に学びつつ、本遺跡出土鉄器のうち小形鉄器(鉄片を含む)の資料化を第一義とし、把握可能な情報の提示等を目的に、執筆者両名の協議を経てまとめた。報告資料はいずれも出土から約 50 年、保存処理からも相当の年月が経過した後に実測調査を行ったものである。なお、保存処理の専門家による調査指導や研究目的で行われた保存処理の際に X 線写真も撮影されたと思われるが、仔細は不明であり、実測図作成時には参照していない。また、調査図面はすべてを確認できておらず、詳しい出土位置が未特定の写真もある。調査後の土壌分別で確認された資料も含まれるかもしれない。参考のため、資料に添付されたラベルの記載(遺跡名、遺構名、出土位置、出土日等)を原文のまま付記し、文責はそれぞれが執筆した部分の末尾に示した。

(小黑・野垣)

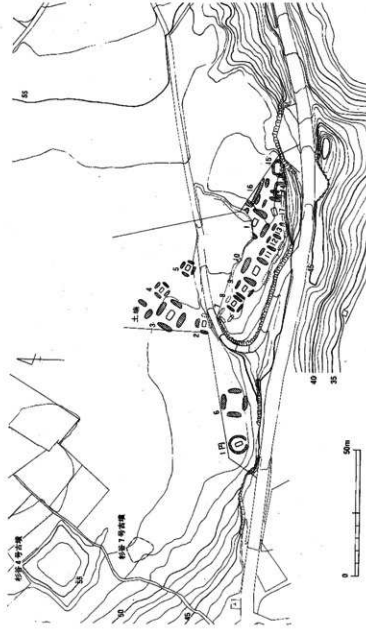


図 1 杉谷 A 遺跡遺構配置図(富山市教育委員会 1975、第 3 図)

報告資料と関連資料

(1) ヤリガンナ (図2-1) 「杉A 3方周 南溝中層 74.10.06」

第3号方形周溝墓南溝の中層から出土した遺物である。報告書によると、第3号方形周溝墓の南溝は、検出面から約1mの深さがあるため、底面から50cm前後浮いたレベルから出土した遺物となる。主体部が削平された際に周溝内に流れ込んだ可能性もある。

本資料はヤリガンナの刃部付近で、残存長6.6cm、幅1.0cmである。刃部が膨らんで鍔状となり、横断面は湾曲してわずかに鍔が認められる。身部は、欠損部付近で0.8×0.3cmの断面方形形で、刃部に向かって幅と厚みをやや減じる。側面は、刃部が反り上がる。木質等は確認できない。なお、欠損部付近に幅1.2cm、厚さ0.1cmの三角形の鉄片が付着している。ヤリガンナの一部とはみられないため、別の鉄製品の破片等と考えられる。

本資料は、第3号方形周溝墓の主体部から出土しているヤリガンナ (図5-2~4) と比較すると、身部の幅や厚さは類似する。しかし、刃部については、推定復元された図5-4とは平面・断面形に違いがある。また、主体部出土のこれら3例は、後述するとおり織物の付着がみられ、この点も本資料と異なる。したがって、南溝中層出土の本資料 (図2-1) と主体部出土の図5-2~4は、同じ第3号方形周溝墓からの出土ではあるものの、出土地点の違い

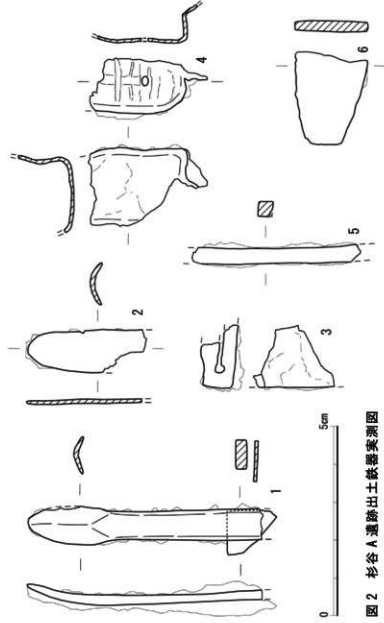


図2 杉谷A遺跡出土鉄器実測図

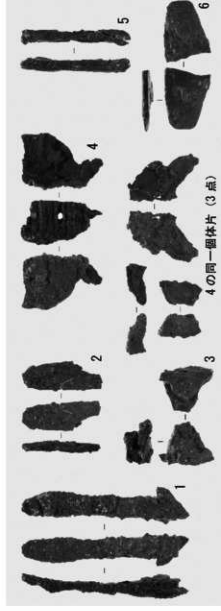


図3 杉谷A遺跡出土鉄器写真

に加え、形態や保管方法、取り扱いの違いも推定され、入手から副葬に至る来歴が異なっていた可能性がある。

(2) ヤリガンナか(図2-2) 「第3方周 No.7 741010」

第3号方形周溝墓から出土している。詳しい出土地点は未特定である。

資料は、残存長3.1cm、幅1.1cm、厚さ0.15cmである。湾曲する横断面が上記図2-1のヤリガンナ刃部と類似し、幅も同様である。一方で、本資料は側面の刃部の反りがなく、先端はやや丸みがあって厚も薄いという違いがある。ただ、研ぎ直しによる変形や、使用時から現在に至るまでの変形も考慮されることから、ここではヤリガンナの刃部と推定する。木質等は認められない。ヤリガンナとすれば、刃部が塊状に膨らむのではなく、身部から刃部へ直線的に移行するタイプであろう。

(3) 方形板刃先か(図2-3) 「第3方周 No.7 741010」

上記(2)の資料と同じ袋に収納されており、第3号周溝墓の同じ地点から出土した遺物とみられる。

残存長2.1cm、残存幅1.6cmで、厚さ0.3~0.4cmの鉄板を二つに折り曲げている。折り曲げた内側の空間の端部が丸くなっているように見えるが、これが本来の形態を示すものか、錆膨れ等の変形によりそう見えているだけなのかは判断できない。折り曲げられた形態から方形板刃先の袋部と推定した。袋部の空間が0.1cm程度と狭いのが疑問ではあるが、弥生時代後期終末の金沢市塚崎遺跡例のように、0.2~0.3cmしかかかない資料も存在するため、必ずしも否定する根拠にはならないと考えた。塚崎遺跡例は、袋部の空間が狭いことや木質が遺存していないことから、未使用のまま埋められた可能性が指摘されている(河合・林1999, p. 49)。本資料が未使用品かどうかはわからないが、小片として出土している状況から、使用・副葬時以降、出土時点までの間に破損し、その際に変形が生じた可能性もある。

(4) 不明鉄器(図2-4) 「杉谷A 17主体」

第17号方形周溝墓主体部から出土した。当該主体部からは、ほかに短剣・ガラス玉等が出土している。

資料は、厚さ0.1cm程の鉄板を横断面隅丸方形状に加工している。実測図の下面は、破断して下方に折れ曲がっているものの、本来は袋状に閉じていたと推測する。欠損している左側面は、上面から屈曲した面の一部が残っていることから、全体幅は約2.2cmに復元できる。右側面は中央に径2.5mmの目釘孔のような孔が認められる。また、ミミズ腸れ状の横筋が6条みられるが、何らかの痕跡を示すものか不明である。なお、同じケースには同一固体とみられる小鉄片3点もあるが、本資料とは接合しない。

用途については、同じ主体部から短剣が出土していることから、それに伴う装具の可能性も考えられた。しかし、そうだとすれば断面が精円形や倒卵形になるとみられ、また報告書にある短剣の出土状況写真(富山市教育委員会1975, 図版8)にも本資料は写り込んでいないため、可能性は低い。現状種別を特定できないため不明鉄器とする。(野垣)

(5) 棒状鉄片(鉄素材か)(図2-5) 「杉谷A 1方南 No.1 741118」

本資料は、第1号方形周溝墓の南溝から出土したとみられる。

資料は、残存長4.4cmの棒状鉄片で、約4mm四方の角柱状を呈する。両小口部の現状は保存処理時に欠損部位が整えられた結果と見受けられ、本来はさらに長かったと判断する。表面に織物等の痕跡は認められない。なお、実測図下方の小口部など、保存処理後の剥離が進んでいる箇所もある。現代の釘(洋釘=丸釘)とは考えられず、本格的利用が開始された

古墳時代中期の鉄釘（角釘）と比べて細身で木棺の痕跡（木目等）もない。この形態的特徴を重視すると、消去法的判断ながら、本素材は鉄素材の可能性がある。廃鉄片が鉄素材として流通し、本来ははずれかの蓋の蓋の主体部に副葬されたものではなからうか。

ところで、本遺跡では第3号方形周溝墓の副棺竹形木棺から、同様に鉄素材と考えらるべき板状鉄片（林・佐々木 2001, p.177、小黒 2003, 註⑥、2023a, p.100 など、図4）が出土している。

当該資料は幅や長さが異なり、厚さ1~3mmの板状鉄片が錆着している。湾曲した状態で錆着した鉄片もある。いずれもほぼ平坦、薄い鉄板状態で、端部に刃は作りだされず、叩き延ばした段階の鉄板と判断される。鋸で切断し、研磨して小型鉄器を製作する直前の鉄素材と考えられるものであり、叩き延ばす直前の段階が図2-5と推定できる。

なお、林大智氏と佐々木勝氏は、弥生時代後期後半の金沢市吉原七ツ塚墳墓群 B20 号土坑から出土した2点の板状鉄片も鉄素材と推定（林・佐々木 2001, p.177）した。

また、杉谷 A 遺跡には、図2-5、図4以外にも鉄素材の可能性がある資料が存在する。それは、第1・3号方形周溝墓主体部出土ヤリガンナである（図5）。ヤリガンナは木柄に装着されたまま副葬されることが多いものの、これらは木柄から地金を取り外され、織物で二重に包まれた。当該織物は、本遺跡では中型となる第2号方形周溝墓主体部出土素戔尊頭刀の身部に付着していた平織物と類似する。素戔尊頭刀の平織物は布目順部氏によって家蚕の平絹と同定され、遺跡周辺で養蚕・製糸・絹織が行われた（布目 1985, 1999, pp.4-7）と判断された。ゆえに、第1・3号方形周溝墓出土ヤリガンナを包んでいた織物も平絹の可能性が高い。

鉄素材の存在に加え、貴重な平絹で包まれていた可能性が高いことを重視すると、小型鉄製工具ゆえに、破損したヤリガンナから柄を外し、地金を鉄素材として再利用することも念頭に平絹で包んで保管していた可能性もある。吉原七ツ塚墳墓群 B20 号土坑の鉄素材と同様、小型鉄器へと再生可能な資源であるがゆえに、第1・3号方形周溝墓へ副葬されたのではなからうか。図5のように地金を織物で包んだ状態の小型鉄器片は、福井市原目山2号墓第4主体出土板状鉄片（ヤリガンナ出土先欠損品）にもあり、同墓5号主体には杉谷 A 遺跡第2・3号方形周溝墓出土素戔尊頭鉄刀と同型物品（豊島分類：素戔刀IV式、豊島 2010 図32）が副葬さ

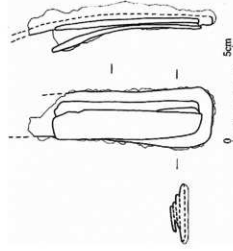
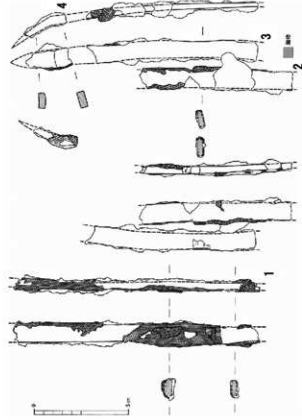


図4 杉谷 A 遺跡第3号方形周溝墓副棺竹形木棺出土鉄素材（林・佐々木 2001 第6 図 109）



1: 第1号方形周溝墓 2~4: 第3号方形周溝墓

図5 杉谷 A 遺跡第1・3号方形周溝墓出土ヤリガンナ（小黒 2003 第6 図）

れ、同型式は北埼玉のみに存在すること（豊高 2010 図 35）、原目山 1 号墓から淡青色のガラス小玉が多量に出土していることなど、両遺跡の副葬品組成等が類似することも注目される（小黒 2023a, pp. 100-101, 2023b, pp. 34-35）。

なお、図 2-5 のような棒状鉄片は、打出遺跡 S101（富山市教育委員会 2006 第 64 図 458・461；弥生時代終末期前半～古墳時代前期前半）や古墳時代前期前葉、同 S105（同図 465；弥生時代後期）、同 S0315（同図 475；弥生時代後期）、百塚住吉遺跡 B 地区遺物包含層（富山市教育委員会 2009 第 50 図 65）でも出土している。図 4 のような板状鉄片は、打出遺跡 S105（富山市教育委員会 2006 第 64 図 467；弥生時代後期）で確認されている。特に打出遺跡 S101・05 では鍛冶炉（S101-P02（カーボン・ベッド；地下防湿構造）；弥生時代終末期前半、S105-SK126・127（鍛冶炉）；弥生時代後期）に加え、砥石も確認され、別遺構からは鉄器製作時の切片（端切れ）や鏝、鉄床石として用いられた可能性もある粗砥、石髓の可能性もある叩石、刃部などの尖ったものを研磨した痕跡が明瞭な軽石製研磨具などが出土したことは注目される（小黒 2006, pp. 187-188, 2023a, pp. 89-91）。

越中以外に目を向けると、棒状鉄片は能登の石川県七尾市奥峠遺跡などで確認されている。ちなみに、林氏と佐々木氏は同遺跡出土棒状鉄器を「打ち延ばし技法」用の鉄線素材と解釈（林・佐々木 2001, p. 180）した。

(6) 刀子（基部）か（図 2-6） 「6 号方周 主体部」

添付されたラベルの記載によると、本資料は第 6 号方形周溝墓の主体部から出土したものととなる。ただ、報告書によれば、本墓の主体部は「かつてブルドーザーが地ならしをしたこととあって検出できなかつた」（富山市教育委員会 1975, p. 7）と明記されており、平面図（図 1）にも主体部は示されていない。このように、報告書の記載と本資料に添付されたラベルには齟齬がある。この理由はわからないが、報文とラベルの記載を重視し、ここでは第 6 号方形周溝墓で検出できなかつた中心主体部ではなく、周溝内の主体部から出土したのかもよしれないとの可能性を指摘するに留めておく。ただ、仔細は不明である。なお、報告書によれば、溝内からは土師器が多く出土し、「特に第 6 号からは四溝とも土器類の存在があった。北溝のものには蓋石と思われるものがあった（図版 9 下）」（p. 7）という。

さて、本資料は欠損部分が多いものの、その形態的特徴からは刀子かと思われる。基部でも茎尻付近に相当する。茎尻は先細りして刃部状を呈する。これが、旧状のままなのか、保存処理過程での影響が及んだ結果なのかは不明である。ただ、富山市金属種の穴横穴墓群第

表 1 杉谷 A 遺跡出土金属製品一覧

	出土遺構等	種別	性格	備考
第 1 号方形周溝墓（主体部）	ヤリガンナ（鉄素材に転用か）	副葬品	副葬品	図 5-1
第 1 号方形周溝墓（南溝）	棒状鉄片（鉄素材か）	副葬品	副葬品（主体部削平時の移動か）	図 2-5
第 2 号方形周溝墓（主体部）	素環頭鉄刀	副葬品	副葬品	素環刀 IV 式（豊高 2010）
第 3 号方形周溝墓（新竹形木棺）	素環頭鉄刀 鉄素材（板状鉄片が複数鑄着） ヤリガンナ（鉄素材に転用か）	副葬品	副葬品	図 4 図 5-2~4
第 3 号方形周溝墓（南溝中層）	ヤリガンナ	副葬品	副葬品（主体部削平時の移動か）	図 2-1
第 3 号方形周溝墓	ヤリガンナか	副葬品か	副葬品か	図 2-2
第 3 号方形周溝墓	方形板刃先か	副葬品か	副葬品か	図 2-3
第 6 号方形周溝墓（周溝内の主体部か）	刀子か	副葬品か	副葬品か	図 2-6
第 10 号方形周溝墓（新竹形木棺）	有茎三角形銅鏃	副葬品	副葬品	
第 17 号方形周溝墓（箱形木棺）	短剣	副葬品	副葬品	
第 17 号方形周溝墓	不明鉄器	副葬品か	副葬品か	図 2-4

3号墓の玄室出土刀子(富山市教育委員会 1976, p5, 保存処理品)にも茎尻が刃状を呈するものは認められる。なお、長刃のうち、より直線的な辺を背側として作図した。上下逆の可能性は残るが、厚さは背側・刃側ともほぼ同じ2.0~2.5mmで、中央部付近が3.0mmとやや厚みがある。目釘孔は認められない。(小黒)

おわりに

本稿では杉谷A遺跡出土遺物のうち、小形鉄器の報告を行った。今回報告した鉄器を含む、杉谷A遺跡の金属製品全体の概要は表1のとおりである。素戔瓊頭刀などの武器類のほかに、ヤリガンナや方形板刃先などの農工具が一定数を占める。ただ、破損した小鉄片が多く、表1の項目「性格」で「副葬品か」とした資料は、項目「種別」で推定した製品の残欠という意義のもとで副葬されたのか否かが定かでない。あるいは、当時は希少な鉄への憧憬や小形鉄器へと再生可能な素材としての意義から副葬された小鉄片、すなわち鉄素材なのかもしれない。さらに、墓塚埋土への混入の可能性も想定すべきなのかもしれない。ただ、いずれの場合でも、古墳出現期の富山平野の地域性を考えるうえで重要な資料である。

また、本遺跡の遺物については、土器についても近年一部が新たに資料化され、月形式期を中心にしつつ一部古府クルビ式期に降る可能性をもつものがあると指摘された(高橋ほか 2022, p89)。各周溝墓の築造時期について検討が進んでおり、こうした点と絡めた鉄器の意義については、稿を改めて検討したい。

本稿の執筆にあたり、藤田富士夫氏から杉谷A遺跡の調査に関して多くのご教示をいただきました。記して感謝申し上げます。(野垣・小黒)

引用・参考文献

- 小黒智久 2002 『富山市杉谷A遺跡小考—第10号方形周溝墓出土銅鏃をめぐって—』『富山市の遺跡物語』第3号 富山市埋蔵文化財センター
- 小黒智久 2003 『富山県古墳副葬品集成 鉄製工具』『大塚』第23号 富山考古学会
- 小黒智久 2006 『打出遺跡の弥生～古墳時代鉄器』『富山市打出遺跡発掘調査報告書』
- 小黒智久 2023a 『ニジの古墳と地域社会』雄山閣
- 小黒智久 2023b 『杉谷古墳群・杉谷A遺跡の全貌～日本海文化論の現在～』『富山市民俗民芸村連携企画展 呉羽丘職』富山市民俗民芸村
- 河合 忍・林 大智 1999 『第3節 方形板刃先・U字形刃先』『石川県考古資料調査・集成事業報告書 鹿耕具』石川考古学会研究会
- 高橋浩二・小島布由美・関口美南・橋本すず・星野佑稀・松浦悠太・水島りさ子 2022 『富山市杉谷A遺跡出土土器の測調調査とその評価』『大塚』第41号 富山考古学会
- 富山市教育委員会 1974 『富山市杉谷地内埋蔵文化財予備調査報告書』
- 富山市教育委員会 1975 『富山市杉谷(A・G・H)遺跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 1976 『富山市古沢・金屋地内古墳概要調査報告書』
- 富山市教育委員会 2006 『富山市打出遺跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 2009 『富山市百塚住吉遺跡・百塚住吉B遺跡・百塚遺跡発掘調査報告書』
- 豊島直輝 2010 『鉄製武器の流通と初期国家形成』独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
- 布目順郎 1985 『富山市杉谷A遺跡出土の絹織物について』『富山市考古資料館紀要』第4号
- 布目順郎 1999 『富山市杉谷A遺跡出土の絹織物について』『布目順郎著作集』第2巻 桂書房
- 林 大智・佐々木勝 2001 『北陸南西部地域における弥生時代の鉄製品』『石川県考古資料調査・集成事業報告書 補遺編』石川考古学会研究会

仲 あずみ (埋蔵文化財センター学芸員)

はじめに

八尾町高善寺地内出土の埋蔵銭は令和4(2022)年4月に所有者から富山市に寄付され、その鑄造としが令和5年7月に完了した。埋蔵銭の総枚数は11,364枚(判読可能枚数は8,661枚、判読不能枚数は2,703枚)である。所報No.24では5,515枚を分類したが、今回残りの5,849枚を追加し、それを踏まえて本埋蔵銭の様相を報告する。

1 八尾町高善寺地内出土埋蔵銭の最終報告

本埋蔵銭は全て唐へ明代で生産されたものと見られる渡来銭だが、一部国内で鑄造された私鑄銭・模鑄銭が混入している可能性も存在する。最古銭は「開元通寶」(唐銭、初鑄621年)、最新銭は「宣徳通寶」(明銭、初鑄1433年)である。

最も多く確認されたのは「元豐通寶」(北宋銭、初鑄1078年)で1121枚(約13%)、次いで「皇宋通寶」(北宋銭、初鑄1035年)で1068枚(約12%)、「開元通寶」が788枚(約9%)を数える。王朝別で見ると北宋銭が圧倒的に多数を占め7,608枚(約88%)、続いて唐銭が825枚(約10%)、その他の王朝が228枚(約2%)となる。

今回の調査で新たに4種

の銭貨(図1)を確認すると共に、各銭種枚数と判読不能枚数、そして全体合計枚数が変更したことをここに報告する。前回は整理の途中報告であったため、今後はこの結果を参照していただきたい。

No.	銭貨名	王朝	初鑄年	枚数	No.	銭貨名	王朝	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	788	29	元符通寶	北宋	1098	133
2	皇元重寶	唐	37	30	30	聖宋元寶	北宋	1101	365
3	漢通元寶	後漢	948	2	31	崇寧通寶	北宋	1102	1
4	周通元寶	後周	955	3	32	大觀通寶	北宋	1107	101
5	唐國通寶	南唐	959	12	33	政和通寶	北宋	1111	347
6	宋通元寶	北宋	960	30	34	宣和通寶	北宋	1119	25
7	太平通寶	北宋	976	119	35	建炎通寶	南宋	1127	3
8	淳化元寶	北宋	990	129	36	正隆元寶	金	1157	8
9	至道元寶	北宋	995	192	37	淳熙元寶	南宋	1174	42
10	咸平元寶	北宋	998	185	38	紹熙元寶	南宋	1190	16
11	景德元寶	北宋	1004	210	39	慶元通寶	南宋	1195	23
12	祥符元寶	北宋	1009	302	40	嘉泰通寶	南宋	1201	6
13	祥符通寶	北宋	1009	144	41	開禧通寶	南宋	1205	2
14	天禧通寶	北宋	1017	233	42	嘉泰通寶	南宋	1208	12
15	天聖元寶	北宋	1023	500	43	大宋元寶	南宋	1225	1
16	明道元寶	北宋	1032	46	44	嗣慶通寶	南宋	1228	9
17	皇祐通寶	北宋	1034	102	45	端平通寶	南宋	1234	1
18	皇宋通寶	北宋	1038	1068	46	嘉熙通寶	南宋	1237	1
19	至和通寶	北宋	1054	78	47	淳祐元寶	南宋	1241	2
20	至和通寶	北宋	1054	41	48	皇宋元寶	南宋	1253	1
21	嘉祐元寶	北宋	1056	80	49	景定元寶	南宋	1260	4
22	嘉祐通寶	北宋	1056	153	50	咸淳元寶	南宋	1265	2
23	治平元寶	北宋	1064	184	51	至大通寶	元	1310	1
24	治平通寶	北宋	1064	18	52	洪武通寶	明	1368	9
25	熙寧元寶	北宋	1068	670	53	永樂通寶	明	1408	62
26	元豐通寶	北宋	1078	1121	54	宣德通寶	明	1433	6
27	元祐通寶	北宋	1086	713		判読不能			2703
28	紹聖元寶	北宋	1094	322		合計			11364

表1 八尾町高善寺地内出土銭一覽



図1 八尾町高善寺地内出土埋蔵銭種の拓本一覽 (追加分) (S=1/1)

仲 あずみ (埋蔵文化財センター学芸員)

1 はじめに

県内では発掘調査された中世墓・近世墓から六道銭が出土する事例は、22 遺跡から 59 例が報告されている(表7)。今回は県内の六道銭出土事例を集成し、主な遺跡の様相を紹介するとともに、県内での六道銭出土状況の特徴について、若干ではあるが触れてみたい。

2 六道銭について

『日本史辞典』において六道銭とは、「江戸時代の庶民が、死者を葬るとき棺におさめた銭。極楽まで行く費用、あるいは三途の川の渡し賃など、死者の旅費や養錢と考えられた。銅銭6文、また地域によっては一定の貨幣・銭型の木片をあてた。」とされている(1)。

現代では貨幣損傷等取締法で故意に硬貨を破滅することは禁止されているうえ、火葬場の窯や遺骨を損傷させるという理由で死者と共に金属製品を火葬することは不可能である(鈴木 2002)。しかし、紙製や木製等の金属製品ではない代用品を使用する等、六道銭埋納風習自体は現代になっても残っており、筆者は祖母の葬式の際に、紙製品の代用品が頭陀袋に入られ祖母の首にかかっていたのを目にしている。

藤澤典彦氏は、六道銭の成立について次のように論じている(2)。

「六道銭の起源や実態については現在ほとんど解明されていない。しかし、墓に銭貨を埋納する風習は中世以前から既に存在しており、古代における銭貨埋納風習は墓の土地の購入費と考えられていた。(中略)その風習が時代を下り法華経にて説かれている六道思想と結合した結果、六道銭という形に変化したと想定される。(中略)そして近世となり伊勢参り等旅が身近なものになると、六道銭は『三途の川の渡し賃、もしくは死出の旅の路銀』という形に考え方が変化していった。」

県内における六道銭研究については、古川知明氏が県内の六道銭出土事例9 遺跡14 例(富山市教育委員会 2002)、宮田進一氏が12 遺跡19 例(宮田 2009)の集成を行っている。

3 県内における六道銭出土事例

表7にて県内における六道銭出土事例22 遺跡59 例を一覧表にして示した。今回はこの中から、年代・出土銭貨の種類・出土状況に注目し、7 つの遺跡の様相・六道銭出土状況等を紹介する。なお、火葬墓・土葬墓などの分類については、各報告書の記載による。

(1) 上布目遺跡(富山市上布目地内)(3)

本遺跡は熊野川のおよび上流の右岸低位河岸段丘上に立地しており、標高は約85mである。縄文時代の集落と12世紀～13世紀後半の集落跡・墓地で構成された遺跡である。中世においては集落と墓域が交互に展開された時期が存在する。

墓壇とみられる土坑は9基あり、すべてが火葬墓である。銭貨が出土したSK02・17・29・31の4基は調査区南東部の径4

出土遺構	年代	銭種		出土枚数
		唐銭	乳元重寶	
SK02		北宋銭	景祐元寶	12枚
SK17		北宋銭	咸平元寶	8枚
	12C後半 ～13C前 半	唐銭	皇宋通寶 開元通寶	
SK29		北宋銭	太平通寶 淳化元寶 景德元寶 皇宋通寶	25枚
SK31		北宋銭	治平元寶 元豐通寶	2枚

表1 上布目遺跡出土六道銭一覧

mの範囲に集中し、銭貨が出土しなかったSK12・15・16・18・25はそれらの東～南に所在する。その他、埋納銭はないが形態上は墓と考えてもよいと考えられている長方形土坑が12基存在する。銭貨埋納墓は全体の2割弱であり、特定の1ヶ所に集中している状況が認められている。12世紀後半～13世紀前半の六道銭出土事例として報告されている。

墓塚から出土した銭種は表1に示した。北宋銭が大半であるが、開元通寶や私元重寶等の唐銭も確認されている。銭貨は被熱しており、被葬者と共に茶甌に付されたと推測されている。

(2) 金屋南遺跡（富山市金屋地内）(4)

本遺跡は井田川下流左岸の自然堤防上に立地しており、標高は約9～11mである。神通川と井田川の合流点付近に位置しており、水上交通の要衝であったと推測される。

金屋企業団地造成工事に伴う発掘調査が行われ、12世紀後半～16世紀の集落・生産遺跡であることが判明した。区画溝によって囲まれた中に居住域と墓域が別領域に形成されるなど、計画性の高い村落構成がみられる。

本遺跡内で発見された土壇墓は主に長方形・楕円形・円形土坑からなり、その総数は100基以上に及ぶ。そのうち、銭貨が埋納された土坑は13基（土葬）である。

出土銭種は表2にて示した。北宋銭が主だが、一部の土壇墓から南宋銭が検出されている。平成12年度調査にて火葬骨片と共に混入したと思われる被熱銭貨がSD41より出土している。

出土遺構	年代	銭種	出土枚数
SK204	12C後半 ～13C前半	皇宋通寶	1枚
SK44	13C	紹聖元寶 淳化元寶 熙寧元寶	2枚
SK75	13C前半	祥符元寶 天聖元寶	2枚
SK643	13C中業 ～14C	聖宋元寶 元祐通寶	4枚
SK416	14C	淳化元寶 治平元寶	3枚
SK401	14C後半 ～15C初	南宋銭 淳熙元寶	9枚
SK56	15C	熙寧元寶	1枚
SK512	-	皇宋通寶	1枚
SK670	-	元豐通寶	1枚

表2 金屋南遺跡出土六道銭一覧

(3) 脇方横穴群（水見市脇方地内）(5)

本遺跡は宝達丘陵・二土丘陵から派出する小丘陵に立地し、標高8～15mである。丘陵の斜面約200mの範囲に、7世紀第1四半期～8世紀初頭に造営された横穴墓が8基所在する。そのうちの第8号横穴墓は、一般国道160号瀬浦トンネル拡張工事に先立つ発掘調査で中世にて再び墓として利用された事例であることが確認された。

第8号横穴墓からは人骨が上下2層に分かれて合計15体出土し、上層から中世期の人骨6体が中世土師器と銅銭と共に出土している。6体の人骨は玄室内の羨道に近い地点に集中していることからほぼ同時期に遺体を投げ込むような形で埋葬されたこと、土をかぶせた形跡がほとんどないことから、風葬もしくは遺棄されたものと推測されている。

第8号横穴墓内 出土地点	年代	銭種	出土枚数
排土中		嘉祐元寶 嘉祐通寶	1枚 1枚
石の下		元豐通寶	1枚
玄室中央部	中世	熙寧元寶	1枚
玄室入口付近		聖宋元寶	1枚
の頭蓋骨下		元豐通寶	1枚
	-	判別不明	1枚

表3 脇方横穴群第8号横穴墓出土六道銭一覧

確認された埋納銭貨の枚数は表3にて示した。判別不明を除けばすべて北宋銭である。頭蓋骨の下から出土した銭貨は、死者の口の中に含まれた可能性もあると推測されている。

(4) 百塚遺跡（富山市百塚地内）⁽⁶⁾

本遺跡は、富山市北部の富山平野を分断する呉羽丘陵北東端の台地上に位置する。標高9.3m～16.5mに位置し、東側には神通川やその支流である井田川が丘陵に沿うように流れる。主要地方道富山八尾線道路改良工事に伴う発掘調査が行われ、縄文時代では集落が営まれ、弥生時代後期後半～古墳時代前期前半にかけて方形周溝墓・古墳が築造され、中世～近世にかけては墓域として利用されていたことが判明した。

本遺跡のE-1地区にて検出された中世～近世の土塚墓は17基（火葬墓5基・土葬墓12基）である。そのうち埋納銭貨が出土した土塚墓は、SK04・12の火葬墓2基であり、その他15基の土塚墓（火葬墓3基・土葬墓12基）からは銭貨は出土していない。

出土銭種は表4にて示した。SK12からは永楽通寶と判別不明銭が鑄着状態で出土しており、2点の銭貨は重なった状態で埋納されたと推測される。

出土遺構	年代	銭種		出土枚数
		北宋銭	永楽通寶	
SK04	11C～	1枚	1枚	2枚
SK12	15C～	—	—	2枚

表4 百塚遺跡出土六道銭一覧

(5) 高寺遺跡（射水市小杉地内）⁽⁷⁾

本遺跡は射水市小杉地内、標高3～4.6mの下条川左岸の射水平野に立地する。蓮王寺の境内地・墓地内に位置しており、平成8年の都市計画街路太閤山・稲積線道路改良事業に伴う発掘調査により、同寺の近世期の墓域が確認された。

本遺跡では土塚墓・早桶・方形木棺・蔵骨器の4種類50基以上の埋葬施設が出土した。埋納銭貨が出土したのはそのうち14基で、土塚墓（直径0.8m前後の円形土坑が大半を占める）9基、早桶（底版径0.3m前後）2基、蔵骨器（無軸素焼きの土師質土器）3基である。4種類の埋葬施設のうち、蔵骨器のみ火葬である。

出土銭貨は、すべて江戸時代の寛永通寶である。種類は寛永13年(1636)～万治2年(1659)に鑄造された寛永通寶一期（通称古寛永）、寛永8年(1668)～天和3年(1683)に発行された裏面に「文」の字を鑄出された寛永通寶二期（通称文銭）、元禄10年(1697)～延享4年(1747)・明和4年(1767)～天明元年(1781)に発行された寛永通寶三期（通称新寛永）である。

埋納銭貨が出土した早桶04・土塚墓SK10・骨壺No.28から、薙型の土人形や鋤のミニミニチュア、泥面子が副葬品として出土した。

(6) 桜町遺跡（小矢部市桜町地内）⁽⁸⁾

本遺跡は小矢部川と子樺川の合流部西側にあり、標高は丘陵下の北側で約30m、丘陵下の南側で約26m、小矢部川付近の北東部で約23mを測り、北西部から北東部へ傾斜している。昭和61年度調査区（中出地区）の中世期の土坑SK01の覆土から、無文銭9枚が出土した。六道銭の可能性があり、墓塚と推測されている。県内にて、無文銭を六道銭として埋納した事例は少ない。

(7) HS-04 遺跡（射水市小杉地内）⁽⁹⁾

本遺跡は射水平野を流れる下条川の右岸に位置する。

平成8年に二級河川下条川の河川改修における公園建設に伴う発掘調査が行われ、弥生時

代末～古墳時代前半に集落が営まれ、中世に再度集落として営まれたことが判明した。

出土銭貨はすべて包含層出土であるが、6枚重なった状態で出土した1例は六道銭と推測されている。その銭種を表5にて示した。唐銭・北宋銭+寛永通寶+明治期一銭硬貨という、時代が異なる銭貨が組み合わされた事例である。

出土地点	年代	銭種	出土枚数
包含層 (X97、Y 21地点)	近代	唐銭	既元通寶 1枚
		北宋銭	元豐通寶 1枚
		近世期	紹聖通寶 2枚
		明治期	寛永通寶 1枚
		明治期	一銭硬貨 1枚

表5 HS-04遺跡出土六道銭一覽

4 まとめ

県内の事例から、六道銭として報告されている銭貨の出土年代は12世紀後半～近代である。六道銭が埋納された墓塚の埋葬方法は土葬・火葬だが、脇方横穴墓のように風葬による埋納においても六道銭出土事例が確認されている。

出土銭種は唐～明代の銭貨(唐銭・北宋銭・南宋銭・明銭)と江戸時代に鋳造された寛永通寶だが、模範銭も出土している。桜町遺跡で出土した無文銭はいわゆる模範銭の一種であり、一目で悪銭と分かる代物ではあるが、流通していた形跡が全国的に報告されており(東北中世考古学会 2001)、岩手県でも墓への埋納銭貨として利用されていた事例が確認されている(財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006)。

県内の六道銭出土遺跡を全体的に見てみると、年代が下るにつれて埋納銭種の組み合わせが変化し、銭貨埋納枚数も6枚単位へ増加していく様相が見えた。その様相を3段階に大別し、表6にて示した。Ⅰ期は12世紀後半以降、Ⅱ期は15世紀以降、Ⅲ期は17世紀以降と想定する。

斎藤隆氏が「古銭の枚数は1枚～38枚とさまざままで「六道銭」といわれる如く6枚とは一定していない。6枚を伴わせることが多くなつたのは、これらの例から室町時代以後と思われる、特に江戸時代に於いて確立されたものと思われる。」(10)と述べている状況が、県内の遺跡の六道銭出土状況からも確認できる。

今回は、今回紹介した各遺跡の性格・銭貨が埋納されていた墓塚の状況・埋納銭貨の枚数等をより詳しく分析していきたい。

段階	主な時期	出土銭貨の組み合わせ	主な出土遺跡	出土状況	埋納数
Ⅰ	12C後半～	北宋銭+唐銭	上布目遺跡	2～25枚	枚数一定せず
		北宋銭	金屋南遺跡	1～9枚	
		北宋銭	脇方横穴墓	8枚 古墳時代の横穴墓転用、 風葬	
Ⅱ	15C～	その他(判別不明除く)	桜町遺跡	無文銭9枚	6枚埋納銭散見
		北宋銭+明銭	百塚遺跡	1～2枚	
Ⅲ	近世	寛永通寶	高寺遺跡	1～15枚 6枚埋納墓4件	6枚埋納銭増加
		その他(判別不明除く)	HS-04遺跡	唐銭+北宋銭+一銭	

表6 六道銭出土状況の変遷

注

- (1) 角川書店 1996『新版 日本史辞典』
(2) 藤澤典彦 2002『墓中埋納銭貨の変容 -六道銭の成立をめぐる-』『季刊 考古学 第78号』(株) 雄山閣 P38~41
(3) 富山市教育委員会 2002『富山市上布目遺跡発掘調査報告書』
(4) 富山市教育委員会 2006『富山市金屋南遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
(5) 米見市教育委員会 1989『隘方横穴群』
(6) 富山市教育委員会 2012『富山市百塚遺跡発掘調査報告書』
(7) 小杉町教育委員会 1998『高寺遺跡発掘調査概要』
(8) 小矢部市教育委員会 2003『桜町遺跡発掘調査報告書』
(9) 小杉町教育委員会 1999『HS-04 遺跡発掘調査報告』
(10) 魚津市教育委員会 1981『富山県魚津市印田近世墓発掘調査報告書』P13

参考文献

- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006『山口館跡発掘調査報告書』
鈴木公雄 2002『銭の考古学』吉川弘文館
東北中世考古学会 2001『中世の出土摸銭』高志書院
永井久美男編 1998『近世の出土銭Ⅱ -分類図版篇-』兵庫埋蔵銭調査会
宮田進一 2009『富山県』『中世の墓と銭』出土銭貨研究会

通称名	所在地	遺構	時代	埋蔵施設	銭貨の種類と枚数	備考	出典
1 上布目遺跡	富山市 上布目	SK02	12C後半～ 13C前半	土溝	唐銭 北宋銭	12 密砂	火葬墓
		SK17	12C後半～ 13C前半	土溝	北宋銭	8	火葬墓 密砂
		SK29	12C後半～ 13C前半	土溝	唐銭 北宋銭	25	火葬墓 埋蔵・焼直し 様になったもの あり。 25 埋蔵状態で出土 あり。
		SK31	12C後半～ 13C前半	土溝	北宋銭 不明	2	火葬墓 密着状態で出土
		SK416	14C	土溝	北宋銭	3	
		SK563	13C中葉～ 14C	土溝	不明	不明	出土記載のみ 詳細なし
		SK589	13C中葉～ 14C	土溝	不明	不明	出土記載のみ 詳細なし
		SK627	13C中葉～ 14C	土溝	不明	不明	出土記載のみ 詳細なし
		SK633	13C中葉～ 14C	土溝	不明	不明	出土記載のみ 詳細なし
		SK643	13C中葉～ 14C	土溝	北宋銭	4	
		SK44	13C	土溝	北宋銭	2	
		SK75	13C前半	土溝	北宋銭	2	
		SK204	12C後半～ 13C前半	土溝	北宋銭	1	
		SK56	15C	土溝	北宋銭	1	
2 金屋南遺跡	富山市 金屋	SK512	-	土溝	北宋銭	1	
		SK670	-	土溝	北宋銭	1	
		SD41	14C後半～ 15C	-	北宋銭	多数(詳細 なし)	SK685による火 葬片7枚に漢 人か。
		SK401	14C後半～ 15C初	土溝	南宋銭 不明	9	密着状態で出 土。
		SK445	中世	土溝	北宋銭 不明	12	6枚、3枚付着状 態で出土したも のあり。 密着で包まれて いた可能性あ り。
		SK1345	中世	土溝	北宋銭 不明	3	密着感がある木 片出土
		SK234(E 地区3区)	中世	土溝	北宋銭	6	火葬墓 6枚重ねて出 土。 6枚重ねて出 土。 宝印・五輪 塔有。
		第8号溝穴	14C前半	溝穴蓋	北宋銭 不明	8	水原市教育委員 会『協方 溝穴群』1989
		SK04 (E-1地区)	11C～	土溝	北宋銭	1	時代が下る可能 性あり
		SK12 (E-2地区)	15C～	土溝	明銭 不明	2	2枚密着状態で 出土
7 脇方谷内出 中世墓	水原市 脇方	B区前列	15C切	土溝	北宋銭	2	火葬墓
		B区	15C～	-	北宋銭 明銭	6	
8 相原加賀坊 遺跡	南砺市 福光	SK14	15C	土溝	北宋銭 明銭	4	火葬墓 うち3枚重なった 状態で出土
		SD4601 SX4615	15C後半 15C後半	土溝 土溝	北宋銭 不明 北宋銭	3 5	溝内に墓有
9 相原安丸遺 跡	南砺市 福光	SK14	15C	土溝	北宋銭 明銭	4	火葬墓 うち3枚重なった 状態で出土
		SD4601 SX4615	15C後半 15C後半	土溝 土溝	北宋銭 不明 北宋銭	3 5	溝内に墓有
10 中名 I・V遺 跡	富山市 中町 中名	SK14	15C	土溝	北宋銭 明銭	4	火葬墓 うち3枚重なった 状態で出土
		SD4601 SX4615	15C後半 15C後半	土溝 土溝	北宋銭 不明 北宋銭	3 5	溝内に墓有

富山市教育委員会『富山市上布目遺跡発掘調査報告』2002

富山市教育委員会『富山市金屋南遺跡発掘調査報告』1999

富山市教育委員会『富山市金屋南遺跡発掘調査報告』2006

富山市教育委員会『富山市金屋南遺跡発掘調査報告』2007

財団法人富山県文化振興財団『富山県文化振興財団調査報告』1984

水原市教育委員会『協方溝穴群』1989

富山市教育委員会『富山市相原加賀坊遺跡発掘調査報告』2012

水原市教育委員会『脇方谷内出中世墓』2000

財団法人富山県文化振興財団『富山県文化振興財団調査報告』1996

財団法人富山県文化振興財団『富山県文化振興財団調査報告』1996

財団法人富山県文化振興財団『富山県文化振興財団調査報告』2003

通跡名	所在地	遺構	時代	埋葬施設	銭貨の種類と枚数	備考	出典
11 安吉遺跡	射水市 安吉	SK51	14C後半~ 16C	土構	北宋銭 明銭	堀土中の出土 の樹皮の下か ら重なった状 態で出土	附設法人富山県文化振興 財団埋蔵文化財調査事務所 所「水上遺跡・舟井南遺 跡・安吉遺跡・堀田遺跡・ 本江大坪1遺跡発掘調査 報告」2012
				土構	唐銭 北宋銭 不明	重なった状態で 出土	
12 吾倉A遺跡	富山市 吾倉	SK09	中世	土構	北宋銭 不明	2 火葬墓	富山県埋蔵文化財七ヶ ヶ一(住海遺跡)吾倉A遺 跡・吾倉B遺跡(富山県 全運動公園内遺跡発掘調 査報告3)1993
13 石頭遺跡	魚津市 石頭	SK33	16C前半	土構	北宋銭	1 火葬墓	富山県教育委員会『魚津 市石頭遺跡発掘調査報 告』1972
14 南中田D遺跡	富山市 南中田	SK3098	中世末	土構	北宋銭	1	富山県埋蔵文化財七ヶ ヶ一(富山県富山市南中 田D遺跡発掘調査報告 書)1991
15 櫻町遺跡	小矢部 市産田・ 中出	SK3952	中世~近世	土構	不明	6	6枚纏まった状 態で出土
16 安養寺遺跡	富山市 安養寺	SZ04	17C	早橋	寛永通寶	1	小幡神社跡で出 土
17 堀切通跡H区 石田子 石塔軒遺跡	黒部市 石田子 堀切	SZ01	17C中重~ 18C	早橋	北宋銭 不明	3	黒部市教育委員会『堀 切通跡発掘調査報告 (弥生・古墳・古代・中世編 上)』2003
18 高寺遺跡	射水市 小杉町	昇橋4	1729年	早橋	寛永通寶	12	文銭あり
		昇橋7	近世	早橋	寛永通寶	2	
		SK10	近世	土構	寛永通寶	2	
		SK13	近世	土構	寛永通寶	15	
		SK14	近世	土構	寛永通寶	6	
		SK15	近世	土構	寛永通寶	5	
		SK17	近世	土構	寛永通寶	2	
		SK32	近世	土構	寛永通寶	5	
		SK39	近世	土構	寛永通寶	6	
		SK41	近世	早橋?	寛永通寶	2	
19 印田近世墓	魚津市 印田	SK45	近世	早橋?	寛永通寶	1	
		骨壺No.14	近世	骨壺	寛永通寶	6	文銭あり
		骨壺No.28	近世	骨壺	寛永通寶	6	文銭あり
		骨壺No.29	近世	骨壺	寛永通寶	8	文銭あり
		壺No.1	江戸後期	壺	寛永通寶	2	古寛永・新寛永 5枚?2枚に偽造
		壺No.3	江戸後期	壺	寛永通寶	7	布(炭化)の付 着あり 新寛永(3枚)
		壺No.4	江戸後期	壺	寛永通寶	1	古寛永
		壺No.5	江戸後期	壺	寛永通寶	1	古寛永
		壺No.6	江戸後期	壺	寛永通寶	1	古寛永
		壺No.7	江戸後期	壺	寛永通寶	1	古寛永
20 三ヶヶ本源発 遺跡	射水市 本願寺	SK50	近世	土構	寛永通寶	6	うち2枚磨滅状 態で出土
21 HS-04遺跡	射水市 小杉町	包帯層	明治	-	北宋銭 唐銭 一銭	6	小杉町教育委員会『HS- 04遺跡発掘調査報告』 1999
				骨壺	寛永通寶 (古寛永)	6	黒部市教育委員会『北 越切通跡H区区の発掘調査 報告書』2011
22 北越切通跡 H区の塚	黒部市 堀切	塚	近代	骨壺	寛永通寶 (古寛永)	6	黒部市教育委員会『北 越切通跡H区区の発掘調査 報告書』2011

表7 県内六道銭出土遺跡一覧

(古川 2002、宮田 2009 を参照・一部改変、報告書内で「六道銭(六文銭)」「墓塚より出土」と記載された事例のみ抽出)

はじめに

平成 25 年、富山市西町南地区第一種市街地再開発事業に伴う富山城下町遺跡主要部の発掘調査において、17 世紀後半から 19 世紀にかけての井戸 5 基、土坑 11 基、溝 6 条、ビット 1 基が検出された。調査地点は江戸時代には北側に北越街道が通り、それに向する町屋敷地の庭にあたるかと推測されている(図 1)。

検出された井戸 5 基のうちの一つである井戸(SE04)の掘方から漆器碗が出土している。この漆器碗は、意図的に設置したと考えられ、井戸を構築する際に行っていたまじないの行為と推定している。

このことについて、他の遺跡の調査事例に加え、民俗事例なども踏まえて考察したい。

1 富山城下町遺跡主要部の井戸(SE04)の概要

SE04 は桶積み上げ井戸で、桶は一段分が残っていた。井戸側の桶底には自噴用の竹製の湧水管が垂直に設置されており、水が自噴する深さまで湧水管を打ち込み水を溜め汲み上げする構造である。年代は 18 世紀後葉〜19 世紀中葉と報告されている。

SE04 の掘方の長軸は、1.6m 以上で、短軸 1.37m の不正形で、深さは遺構検出面から 1.44m が確認できる。現存する桶の上端は楕円形で、安破の大地震によって変形したと推測されている。設置された漆器碗はほぼ完形で、全面黒漆塗りである。その漆器碗は、一段目に置かれた桶の底部近くの外側、掘方内に逆さまの状態で設置されていた。設置場所は井戸側中心から東北東の位置にあたる(図 2)。漆碗は口径 12.3 cm、器高 5.4 cm、底径 6.6 cm で、樹種はトチノキである。



図 1 富山市西町南地区第一種市街地再開発事業に伴う富山城下町遺跡主要部発掘調査位置図(→で示したところ、1:12,500)

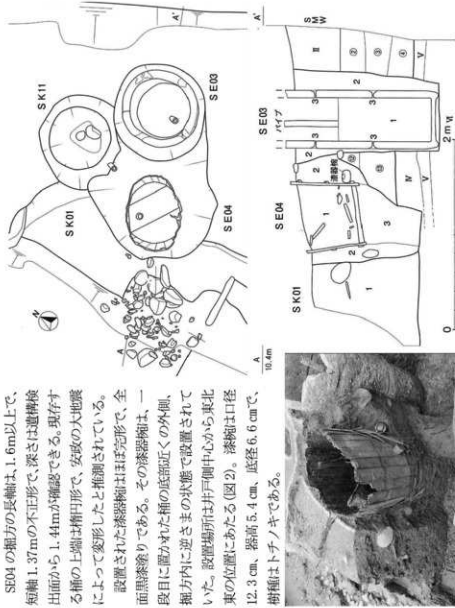


図 2 富山城下町遺跡主要部 SE04 (1:40) 写真は南から撮影

2 他遺跡にみる事例

このような事例は、県内の中世遺跡から確認でき、次に述べる。

(1) 富山市金屋南遺跡

本遺跡は富山市金屋に所在し、企業団地の造成に伴い発掘調査が行われている。縄文時代から近世までの集落、生産遺跡であり、古代～中世を主体とする遺跡である。

特に、中世後半(14世紀後半～16世紀)は本遺跡の最盛期であり、掘立柱建物、井戸などが確認されている。また、14世紀後半～15世紀に動物生産が行われており、猪や梵鐘・鹿脚などの仏具をつくっていたことがわかっている。15世紀頃に本遺跡は「御服荘」に含まれるとされ、それを背景とした有力者が動物生産やここで紹介する井戸築記などに関わったと報告されている。

本遺跡のSE05(15世紀後半)の堀方から富山城下町遺跡主要部(SE04と同様にほぼ完形の漆器碗が逆さまの状態で出土している(図3・4)。井戸側は井戸底部に木組を設置し、木組の最下層あたりから石を積み構造である。石組の平面形は隅丸方形であり内寸で一边約1mになる。石組は深さ約2.3m分を確認している。

木組は2重構造で、内外側ともに横板組である。その内には水溜として桶が設置されている。

漆器碗の設置場所は、井戸底に近く、木組の外側に積まれる石組の下から二段目のところにあたる。方は井戸側の中央から見て、北北東の位置である。漆器碗は全面黒漆塗りで、内外面ともに赤漆による文様が施される。外面には罌や植物が描かれ、口径15.6cm、器高6.5cm、器径8.8cmである。

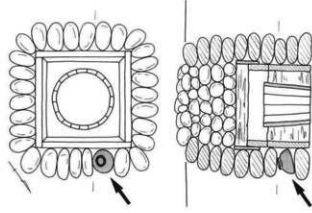


図3 金屋南遺跡 SE05 漆器碗出土状況模式図(約1:40)



図4 金屋南遺跡 SE05 左: 漆器碗出土状況(北から)、右: 井戸掘出土状況(北西から、→で示したところから漆器碗が出土した)

(2) 富山市中名 I・V遺跡

本遺跡は富山市婦中町中名に所在する。古代、中世～近世の集落遺跡で、中世以降では12世紀後半～17世紀までの礎石建物、掘立柱建物、井戸、溝などが検出されている。13～14世紀においては区画制によって居住空間が形成されている。

井戸(SE1268)から漆器碗が出土しており、年代は13世紀前半である。井戸側は縦板組脚柱横棧留で、報告書には「堀方の南西隅から完形の漆器の碗が伏せた状態でみつつかっており、井戸を造る際の地鎮と思われる。」と記述されている。富山城下町遺跡主要部と同様の出土状況である。漆器碗は全面黒漆塗りで、口径14.5cm、器高4.5cm以上で、樹種はケヤキである。

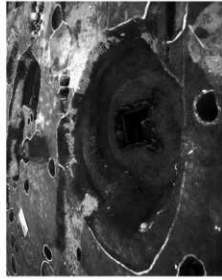


図5 富山市中名 I・V遺跡 SE1268(南から)

(3) 富山市水橋金広・中馬場遺跡

本遺跡は富山市水橋金広、水橋中馬場、水橋清水堂地内に所在する。農免農道の整備などに伴って発掘調査が行われており、縄文時代後期～近世の遺跡で、中世では溝で区画された道路などが確認されている。平成14年度に調査された井戸(SE08)では、掘方部分に漆器碗の口縁部を上に向けた状態で設置されていた(図6)。SE08は縦板組脚柱横棧留の井戸であり、水溜めとして楕円形の曲物を設置している。15世紀の井戸と報告されている。

報告書では「井戸側のすぐ外側にピット状の遺構あり、縦板をピットの上に持ち上げ掛けるように斜めに倒したその下に無地黒漆塗りの碗が上向きに据えてあった。これは井戸構築時における祭祀行為の跡と考えられ、碗と井戸の軸への供え物を盛って埋納された可能性が考えられる。碗の中の土壌について土壌微細植物分析・理化学分析・脂質分析を行ったが、動物遺体などは特定されなかった。」と記載されている。漆器碗の口径は15.4cm、器高6.0cm、底径9.8cm。設置場所は、井戸側の中心からほぼ南にあたり、富山城下町遺跡主要部或は金屋南遺跡と近い口縁部を上にして設置されている。

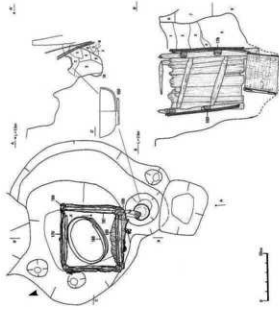


図6 水橋金広・中馬場遺跡 SE08 (1:40)。漆器碗はS=1:12。写真は真から撮影

3 民俗事例などにみる井戸と碗

江戸時代のままじゃない本や伝説、民俗事例において、井戸を掘る時に水脈を調べる方法の中で、「發掘」「お桶」や「たらい」「桶」「鳥の羽根」が使用されている。發掘について、常光徹氏⁽¹⁾が「河内交野地方(大阪)では「夜分、發掘をお桶を伏せて置き、翌朝その桶に露の玉あるや否やを見る。露が付いていれば必ず水あり」と述べている。伏せた發掘につく露から判断する方法は山梨県からも報告がある。」と述べている。

また、滋賀県彦根市の石清水神社前⁽²⁾にある「かどや鞍地と井戸の由来の案内板⁽³⁾」には、「石清水神社前に「かどや」という「お休み処」があった。(中略)井戸は岩を掘り下げて、井戸側はなく、岩の間からじみ出した水で文字どおり「石清水」であった。ところで、この井戸を掘る時、その位置を決めるのに屋敷のあちこちに、幾つもお桶を伏せておき、露の付き具合が一番多いところが、水量も多く、水点も近いであろうと、西南の角に決めたといわれている。(後略)」とある。

さらに、神楽職人重藤町の「高良の上の井泉」の文化財紹介のところに「(前略)ある日のこと、高良巴の山城家の親分が現在墨号山城の祖先が、畑仕事の折り、昼食で使っていたお桶をつがせにしたまま草むらに置いていたところ、お桶の内側に木漏がいはひ付着したれ落ちていたのを見つけた。不思議に思っ付近を見渡すと、草は離れその間から水蒸気がゆらゆらと、たち揚がっている光景をみた山城の親分は地中に水脈があるや確言し、その翌日から一人で水脈探しを始めました。」と記載されており、続けて山城家の親分が「お桶を伏せておき、翌朝その桶に露の玉あるや否やを見る。露が付いていれば必ず水あり」と述べている。このように、大阪府や滋賀県、神楽県で、井戸の水脈を探すために碗や桶を伏せて使用することが伝えられている。

「たらい」などについては、江戸時代の『新撰罪理識記大全』(天保13年版)に「井戸を掘に水脈をしる法」として「四季とも夜はれはわたりたる夜に井を掘んと思ふべし」と述べた後に「水を入らば星の光大きく明らかならうつる廻水脈よしとするべし」と記述されている(図7)。水を入れたら星の光を並べたとあり、

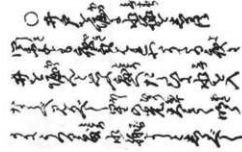


図7 『新集研究類法記 大全』にみる井戸を掘る時に水脈を探す方法 (株式会社福川書店 2006)

伏せた状態ではなく、正位に置いておくことがわかる。

また、山本博氏⁹³⁾は「落陽に住む楚氏が、諸所に井を掘って水を求めたが、いつも失敗した。ある日、方術者がきて教えた。夜、水をいれた器を誦すへおき、星影がもつとも多く映った器の下を掘れ、と。教えたが、夜、水を得た、というのである。玉膳にも同じようなことを記している。夜中の清明な時、水を入れた数個の盆を地上において、どの盆の星光がもつとも明るく大きく映っているかを見定めて、その下を掘ればかならず甘泉が得られる。」と紹介している。

常光徳氏⁹⁴⁾は、民俗事例としての「神主が占うが、月の出が、唯の夜の一時か二時ごろ、水を汲み、桶の中につつま星を見て、地下水の向き、深さを見た。」と群馬県富岡市の事例を挙げている。

ちなみに、「鳥の羽根」については、井戸を掘る予定地に立てたガラスの羽根に露が宿ると水脈があるという⁹⁵⁾。同様の話が大阪府堺市の海会寺にも残っており、海会寺では鶴の羽を使用するとのことである⁹⁶⁾。

4 まとめ

このように、富山城下町遺跡主要部で検出された井戸構築時に漆器桶の掘方への設置事例は、13世紀前半の同名Ⅰ・Ⅴ遺跡のみならず、15世紀末代でも金屋南遺跡などで確認できる。漆器桶を掘方に設置することは井戸をつくる際の祭祀行為と考えられ、富山城下町遺跡主要部の井戸は、18世紀後葉～19世紀中葉の時期であることから、中世～近世の長い期間にわたって、漆器桶を用いたまじないが行われたと推定される。

では、なぜ井戸構築時に漆器桶を使用するのかということであるが、伝説や民俗事例の中にヒントが隠されていると思う。井戸を掘る時に水脈を探す道具のひとつとして「塗桶」や「お桶」が登場する。その使用方法はそれぞれ置き、露のつき具合から水脈を判断するというものである。井戸と桶との関わりが見えて興味深い。また桶を伏せて、逆さまに置いて使用する行為は、富山城下町遺跡主要部や金屋南遺跡の井戸での漆器桶の設置方法に通じると考えられる。ただし、水橋金広・中馬場道跡では、他の3遺跡と違い漆桶を正位に置いていたのは、正位に配置しているたらいなどの影響によるものと考えられようか。最後になるが、想像をたくましくすると、富山城下町遺跡主要部や同名Ⅰ・Ⅴ遺跡、金屋南遺跡の人々は、井戸構築の時に水神や土公に対する信仰はもちろんであるが、井戸をつくらうと水脈を調べた際に使った漆器桶に感謝の気持ちを含めてそのまま埋め込んだのかもしれない。

注

- ① 常光徳 2019 『難除けの民俗学』 87-88 頁
- ② 案内版の右下には「史跡町史跡顕彰委員会」と記載されている。
- ③ 山本博 1978 『神祕の水と井戸』 139-140 頁
- ④ ①と同じ。88 頁。原典は、富岡市が 1984 年に発行した『富岡市史・民俗編』の 748 頁に記載がある。
- ⑤ ①と同じで、高知県土佐市(現、高知市)と宮城県の記事を紹介している。87 頁
- ⑥ ③と同じ。139 頁

文献

- 株式会社福川書店 2006 『重宝記資料集成第 16 巻「俗信・年曆 I」』
 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2003 『同名Ⅰ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書』
 富山市教育委員会 2006 『富山市水橋金広・中馬場道跡発掘調査報告書Ⅱ』
 富山市教育委員会 2006 『富山市金星南遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
 富山市教育委員会 2007 『富山市金星南遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
 西門南地区市街地再開発委員会 富山市教育委員会 2014 『富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書』
 八重瀬町役場 2006 『広報やせせ平成 18 年 11 号』

野垣 好史 (埋蔵文化財センター主任学芸員)
納屋内 高史 (同 学芸員)

1 調査の経緯と経過

富山城址公園の北側を流れる松川は、神通川旧河道の一部である。両岸に延びる段並木は県内有数の桜の名所で、遊歩道が整備されている。

令和5年度、富山県が富山城址公園北東部の松川南岸の遊歩道を一部拡幅するとともに、法面の護岸工事を行うこととなった。これに伴い、40㎡を対象にした試掘調査を令和5年6月6・7日に行ったところ、江戸時代の築堤の石積み護岸遺構を検出した。これを受けて県と協議を行い、遺構を保護して工事を行うこととなったが、掘削中に遺構が確認される可能性を考慮し、工事の際は立会を行うこととした。工事立会は同年12月12・13日に行った。その結果、試掘調査結果の想定より浅い深度で遺構が検出され、急遽記録作業を行った。検出した遺構は、記録後、そのまま地下保存して工事を進めた。ただし、東端部の階段施工箇所で3個の石材が工事の支障になるため、埋蔵文化財センター職員との立会のもと取り外した。

2 検出した遺構 (図1・2)

調査地点は、本丸北辺の堀と旧神通川の間に存在した築堤の北側斜面にあたる (図3)。現在は公園から松川へ下る斜面部で、下半はコンクリートで護岸されている (図2-①)。松川の現在の水面は標高約4.9m、斜面を上った公園 (旧築堤) の標高は約7.5mである。

試掘調査 表土下0.9~1.2mで、北に向かって下る石積みの護岸遺構を検出した。石積みを検出したのは標高4.8~6.2mの範囲で、下方・上方ともトレンチ外に続く。主に下半で川原石を斜めに組み上げる矢羽根状の積み方が認められたが、上半はあまり明瞭でない。勾配は約2°である。この石積みの記録後、下層に古い石積みが存在しないか、トレンチ中央付近の石を取り外して確認したところ、背後に裏込めとみられる円礫 (径5~10cm) を50%程度含む層があった。さらにその下をピンポールで突くと1m以上刺さることから、下層に石積みは存在しないと判断した。取り外した石は、長軸35~40cm、短軸20~25cm程で、短軸面を右面とし、長軸側を控えとして斜め下に刺し込むように組まれていた。土層は、8層が炭化物を多く含む戦災層とみられ、8層と石積みの間から近代以降に堆積したことが明らかである。後述する古写真からみても、石積みより上の層は近代以降に堆積したことが明らかである。

工事立会 試掘調査の結果を受け、遺構を保護するように工事の設計が行われたが、工事掘削時に立会を行ったところ、試掘トレンチより東側を中心に一部石積み遺構を検出した。これは、石積み遺構が東に向かうにしたがい、遊歩道 (=松川と旧神通川河道) に対し北に張り出していて、想定より浅い深度で検出されたためである。石積みは、試掘トレンチとはやや異なり、矢羽根状の様子はみられず、また長軸方向を右面にしていてのみみられる部分もある。東端部の1m程で石積みが存在しないのは、東隣りの過去の擁壁工事で削平されたためであろう。試掘調査と同様、石積みの上層からコンテナ8箱分におよぶ陶磁器、瓦等が出土した。ほぼ近代の遺物で、特に西半部が多い。

3 絵図・古写真からみた護岸遺構

幕末の慶応年間頃の富山城を描いた「前田利同城開ノ図」(図3)は、築堤斜面を石積みで

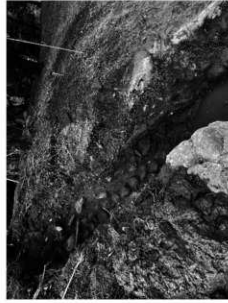
表現するとともに、調査地付近は石積みラインが縮状に張り出し、今回検出した遺構の検出状況と一致している。また、明治末期頃に発行されたとみられる検葉書の古写真(図4)は、調査地付近の神通川を東から撮影したものとみられ、左手に石積み護岸が見える。写真手前の石積みが張り出すあたりが、絵図の張り出し部分に対応するとみられ、今回の調査区は手前から2本目と3本目の木の間のあたりに位置すると推測できる。この写真の時点では石積みは埋まっておらず、今回の遺物の出土状況や時期と整合する。なお、写真の船に乗った人物のスケールから、石積み護岸の高さを大雑把に見積もると、5m前後と推定できる。平成19年度に今回調査地の西約50mで行った築堤上面の試掘調査によると、近代の築堤面の標高は7m



①試掘調査トレンチ透視(北から) 手前は松川



②試掘調査の石積み護岸遺構検出状況(北西から)



③試掘調査トレンチ断面(東から)



④工事立会の石積み護岸遺構検出状況(北西から)



⑤工事立会の石積み護岸遺構検出状況(北東から)



⑥工事立会の石積み護岸遺構検出状況(西端部・北東から)

図2 調査写真

前後とみられる（富山市教育委員会 2008）。ここから石積み護岸の推定高 5m を引くと、写真の神通川水面は標高 2m 前後となる。推測を重ねた不精確な見積もりではあるが、現在の松川の水辺が標高約 4.9m であることと比べると、松川の河床が旧神通川より大きく上がっていることは指摘できるであろう。

富山城の各時期の絵図を確認すると、図 3 の「前田利回城囲ノ図」より前の絵図は、築堤斜面が土塁と同じ表現で描かれているものが多く、石積みだったかどうかかわからない。そのため築造時期がどこまで遡るか、絵図からだけでは不明である。ただし、今回検出した石積み遺構は部分的に積み方があることから推測できるとともに、神通川の氾濫等で損傷するたびに補修しながら近代まで機能していたと考えられる。

本稿の作成にあたり浦畑奈津子氏、萩原大輔氏にご教示を頂きました。記して謝意を表します。

参考文献 富山市教育委員会 2008 『富山城跡試掘確認調査報告書』

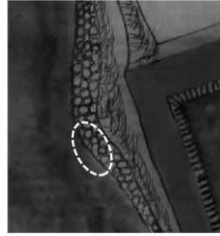


図 3 前田利回城囲ノ図（部分・加筆）（富山市郷土博物館蔵）
※白点線付近が調査地。上が北

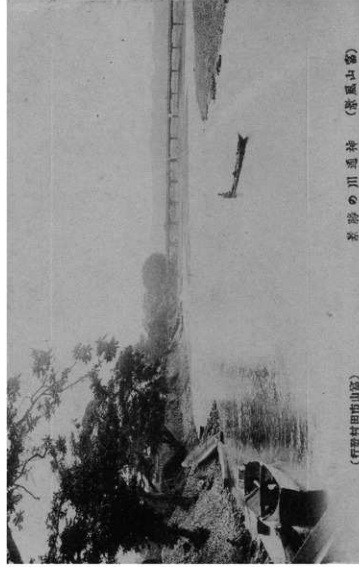


図 4 絵葉書「(富山風景) 神通川の勝景」(個人蔵)
(行草村田田山亭) 神通川の川邊 (富山県)

鹿島 昌也 (埋蔵文化財センター主幹学芸員)

はじめに

令和6年1月1日夕刻に能登半島を震源とするM7.6の地震が発生し、富山市でも震度5強の揺れが観測された。市埋蔵文化財センターが所管する北代遺跡や安田城跡の国史跡においては、被害は確認されなかったものの、昨年10月に指定相当の埋蔵文化財として文化庁のリストに登録された富山藩主前田家墓所（長岡御廟所）の石造物が多数倒壊したり、富山城跡の石垣に地割れや陥没したりするなどの影響があった。本稿は発災から1ヶ月余りで確認出来た被災状況を記すとともに、未指定の文化財の復旧や復興に向けた課題について埋蔵文化財を中心に報告する。なお、数値などは今後調査の進捗によって変動する可能性がある。

1 富山藩主前田家墓所（長岡御廟所）

墓所は、初代利次から十一代利友までの地下室墓・墓標が西群と北群に分かれて配置され、その側に正室御室子息子女の墓標が並ぶ。延宝3（1675）年、売薬の租とされる二代藩主正甫の初代の菩提を弔い廟所を設け、利次の菩提寺である曹洞宗光藏寺の末寺「真国寺」を置いて墓所の管理（墓守）を行わせたことが墓所の始まりとされる。二代正甫が没後には菩提寺である日蓮宗大法寺末寺「妙経寺」が置かれた。以後、藩主墓の追加や参道の付替え、家臣による多数の寄進燈籠の設置が行われたが、明治17（1884）年、神式への変更が行われ、鳥居（現在の鳥居は明治後期）が設置された。

富山市遺跡地区には埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として1.2ha余りの面積で登録されている。平成21年度以降、石造物等の測量調査や歴史資料の調査（古川・野垣ほか2010、富山市教委2016、富山石文化研究所2018）が行われ、それ以前では、富山県立北前高校地歴同好会（顧問：高瀬保、土岐善雄）によって「長岡御廟墓神及び獻燈藩土名調査」が昭和43年にまとめられている。これまで本格的な発掘調査等は実施されていなかったが、令和5年5月に包蔵地内での新墓地造成に伴い264㎡を対象に試掘調査を実施したところ、江戸時代の土塁などを確認した。



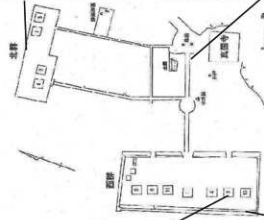
写真1 初代利次墓



写真2 試掘調査（土層断面に白く見える台形状の箇所が土塁、溝は弥生～古墳時代）

一方、同年10月23日付け文化庁次長通知「指定相当の埋蔵文化財の取扱い等について」で指定相当の埋蔵文化財包蔵地リストに富山藩主前田家墓所が記載された。国の大名家墓所の調査で価値はとめられているものの、今後とも継続的な学術調査が必要とのコメントがあり、発掘調査などによる検証が望まれていた。

令和6年1月1日の能登半島地震により、墓所内に建っていた藩主(八代利謙)墓石1基、室子の墓石1基と墓前・寄進燈籠519基のうち169基が倒壊した。倒壊しなかったものの、傾いたりずれたりしたもの122基については、長岡御廟保存会(事務局:富山電気ビルディング(株))により二次被害防止のために接合部分のモルタルによる補強などの応急措置が施された。近代以降の燈籠も15基あるうち5基が倒壊した。藩主墓石と墓前・寄進燈籠170基の復旧の用途はたっていない。墓所の北群北辺に立つ燈籠列が倒壊した29基のうち19基が南方方向を向いて倒れており、地震による揺れの方向を示唆しているようである。



(古川・野垣ほか2010)



図1 石造物倒壊状況

市埋蔵文化財センターでは、石造物の倒壊状況を写真などで記録する作業を行い、損壊状況の把握(診断)を行った。A:転倒して破損したもの(接合・補修などが必要なもの)B:転倒して分散したもの(組み合わせが復元不可能なもの)、C:転倒して分散したもの(組み合わせが復元可能なもの)、D:転倒はしないが傾いたり位置がずれたりしたもの、E:転倒せず、修理が必要ないものの5つに区分して「燈籠カルテ」を作成し、A~Eの現状の観察記録を残すこととした。

2 富山城跡

富山城は、旧神通川右岸の自然堤防上に立地する平城で、戦国期に越中守蓮代神保長職が築城したのが初めとされる。その後、織田信長が佐々成政を越中支配の拠点として富山城に入城させた。政権が豊臣秀吉に移った後、天正13(1585)年には成政の富山城は秀吉に攻められ破壊された。江戸初期の慶長10(1605)年には前田利長が隠居城としての富山城を整備したが、同14年には大火で全壊し、利長は高岡に城を築いて移った。

富山藩10万石が成立した寛永16(1639)年、初代利次が百塚に新しい藩城を築くまで、廃城となっていた富山城に入城した。しかし、百塚築城には叶わず加賀藩からこの富山城を譲り受け、改修して本拠地とすることが万治4(1661)年に決定し、城と城下町を整備した。以後210年余り藩主富山前田家が十三代に渡って居城とした。

明治に入り、富山城址には県庁や県会議事堂などが置かれ、明治後期には本丸と西ノ丸の内堀は埋め立てられた。戦後、本丸東側や西ノ丸西側、北側の堀が順次埋め立てられた。

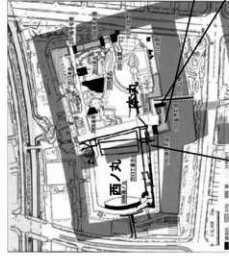


図2 富山城跡の被災状況(一部)

令和6年1月1日の能登半島地震では、この埋め立てられた堀跡で地割れや液状化による被害が生じた。

安政5(1858)年、跡津川断層で発生した

M7クラスの飛越地震では、富山城の石垣が3カ所で崩落した記録が残る。被災直後に描かれた『地水見聞録』（富山県立図書館蔵）には本丸鉄門東石垣の一部や二ノ丸二階櫓門石垣の一部、土橋の一部の崩落状況が描かれており、本丸櫓手門石垣の一部も崩れた。今回の能登半島地震では、石垣の崩れは生じなかったものの、本丸鉄門西石垣の天端で地割れや陥没が発生し、南面に石垣に⁵孕みが生じた。平成17・18年に積み直した東面や北面石垣にもズレや石の割れがみられた。

3 復旧に向けた今後の課題

富山藩主前田家墓所には、薬都富山の礎を築いた二代藩主前田正甫など歴代藩主墓の他、戦後、民間の墓地も多く築かれ、お盆や彼岸を中心に県内外から多くの参拝者が訪れる。墓所は現在、「長岡御廟保存会」が維持管理を実施しているものの、倒壊した墓石や燈籠の復旧には、多くの時間や費用がかかることが見込まれ、その復旧の目処は立っていない。

富山城跡は藩政期に藩都富山の政治・経済の中心となった近世富山町の中心に位置する。現在も富山城址公園として毎年様々な行事やイベントが開催され賑わっていたが、地震により、公園内のトイレ1棟が傾き使用できなくなり、大手通りに繋がる本丸土橋にも影響があり通行止めとなるなど、復旧には時間がかかりそうである。

いずれも国・県・市などの文化財指定を受けていない「未指定の文化財」の復旧は所有者や管理者が行うこととなる。発災後、県内のリサイクル施設に倒壊など被災して集められた大量の石造物の山を見た。中には「献燈」の文字が見えるものもあり、社寺等に寄進されていた燈籠も含まれているのだろう。未指定ではあるが地域の拠り所となっていた施設に数十年前単位で受け継がれてきた文化的な価値を有する資料も含まれている可能性がある。被災したことによって文化的な価値が損なわれる訳ではない。道路の損壊や液状化によって家屋が傾き、未だ避難生活を余儀なくされている方も多くおられる中で、いかにして被災した文化財を守り、次代に継承していくことが出来るのか、身近に起こった震災を通して模索しているところである。

文献

- 富山県立富山北部高校地歴同好会 1968 『長岡御廟墓碑及び献燈落土名簿』
富山市郷土博物館 1999 『富山城の歴史』
富山市郷土博物館 2005 『富山城ものがたり』富山市郷土博物館常設展示図録
古川知明・野垣好史・小林高太・運紹優介 2010 「富山藩主前田家墓所長岡御廟所基礎調査報告」『富山市考古資料館紀要』第29号 富山市考古資料館
富山城研究会 2022 『石垣から読み解く富山城』桂書房

令和5年度 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 No.25

令和6(2024)年3月29日発行

編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒939-2798 富山市鳩中町運風 754 鳩中行政サービスセンター3階

TEL: 076-465-2146 FAX: 076-465-5032

Email: maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印刷 株式会社ヤツオ印刷